

ソーラーエッジ 単相パワーコンディショナ本体交換手順書
(SE5500H-JP0/JPJ → SE5500H-ACS)

目次

準備物	5
1. 交換の前に – 各種設定値の事前確認	6
1-1. 系統保護(4要素)の確認	6
1-2. 力率の確認	7
1-3. 電圧上昇抑制値の確認	7
1-4. マスターPCS、スレーブPCSのプロトコル設定確認	7
1-5. エナジーメーター関連設定値の確認	8
1-6. 固定IP各種設定値の確認	10
2. 発電停止	11
2-1. パワーコンディショナ(以降PCS)のDCスイッチをOFF	11
2-2. DCスイッチをOFF後、5分以上経過し安全電圧まで下がっていることを確認	11
3. ACブレーカー解列(OFF)とDCケーブル取外し	12
3-1. ACブレーカーをOFFにする	12
3-2. フロントカバー取外し	12
3-3. 交流側の各相(L1-N、L2-N間)の電圧が0Vである事を確認	13
3-4. DC入力ケーブルにマーキング後、写真撮影	13
3-5. DCコネクタ取外し治具を使用し、DC入力ケーブル取外	13
4. ACケーブル取外し	16
4-1. 各相(L1-N、L2-N間)の電圧が0Vであることを確認	15
4-2. 各ケーブル(L1、L2、N、アース)にマーキングを実施後、写真撮影	17
4-3. PCS右下の端子台スクリューを緩めて、ACケーブル取外す	18
4-4. ACケーブルをACケーブルグランドから抜取る(ブッシングを回して抜取る)	18
5. 各種通信ケーブル取外し	19
5-1. ケーブルマーキングとケーブル配列・配線状態の確認のための写真撮影	19
5-2. RS485コネクタを外して、スクリューを緩めてケーブルを取外す	20
5-3. 通信ケーブルを、通信ケーブルグランドから抜取る(ブッシングを回して抜取る)	21

6. PCS 取外しと新しい PCS 取付け	22
6-1. PCS 本体をブラケットから取外す	22
6-2. 取外した PCS の銘板を写真撮影	23
6-3. 新たに取付ける PCS の銘板を写真撮影(シリアル No が確認できるように)	23
6-4. 交換用 PCS に同梱されている補助ブラケットを PCS 本体に取付ける	23
6-5. 新しい PCS をブラケットに取付ける	24
6-6. PCS 本体に取り付けた補助ブラケットを金属台に固定する	25
7. AC ケーブル接続	28
7-1. AC ケーブルを PCS 本体内部に引込む	28
7-2. PCS の AC 端子に AC ケーブルを規定のトルクで接続	29
7-3. AC ケーブルグランドのブッシングを完全に締める	30
8. LAN ケーブル接続 (※交換対象 PCS がリーダーPCS(旧:マスターPCS)の場合)	31
8-1. LAN ケーブルをゴムブッシングにはめ込み、 通信ケーブルグランドから内部へ引込む	31
8-2. RJ45 コネクタに LAN ケーブルを差込む(コネクタロック音確認)	31
9. 各種通信ケーブル接続	32
9-1. 各種通信ケーブルをゴムブッシングにはめ込み、 通信ケーブルグランドから内部へ引込む	32
9-2. 各種通信コネクタに通信ケーブルをスクリュー留め	33
9-3. 終端抵抗 DIP スイッチの設定	35
10. DC 入力ケーブル接続	36
11. AC ブレーカー投入(ON)	37
12. SetApp アプリケーションを立ち上げてアクティベーションを行う	38
12-1. QR コード読み込み～Wifi 接続完了	38
12-2. フームウェアのアップロード～アクティベーション完了	38
13. 国設定	39

<u>14. 整定値設定</u>	40
<u>14-1. 系統保護(4要素)の設定</u>	40
<u>14-2. 力率の設定</u>	41
<u>14-3. 電圧上昇抑制値の設定</u>	41
<u>14-4. リーダー(旧:マスター)の設定</u>	42
<u>14-5. エナジーメーター各種設定値の設定</u>	43
<u>14-6. 固定IP各種設定値の設定</u>	47
<u>15. RS485通信の確立(※リーダーPCS(旧:マスターPCS)にて操作実施)</u>	48
<u>16. フロントカバー取り付け</u>	50
<u>17. 出力制御機器を再起動</u>	51
<u>18. オプティマイザー ペアリング</u>	52
<u>18-1. SetAppアプリでペアリングを実行</u>	52
<u>18-2. 「P-OK」のカウントが上がっていく</u>	52
<u>18-3. 経過後、自動的に発電する</u>	53
<u>19. モニタリングサイトにて該当PCSのシリアル番号を置き換える</u>	54
<u>20. 弊社サポートセンター(050-3198-9430)へお問い合わせし、下記情報を伝える</u>	55

準備物

品名	詳細仕様	備考
パワーコンディショナー (以降 PCS)本体 PN: SE5500H-JPJ00BNJ* (※SE5500H-ACS を指す)	弊社より支給させて頂きます。	
DC コネクタ外し治具	推奨: STAUBLI 製 MC4-Evo2 and MC4-EvoAC 	DC コネクタ(MC4, Amphenol, etc)取り外し用
マルチテスター	下記項目が測定できるものを御用意ください ・交流電圧/電流 ・直流電圧/電流 ・抵抗値	
プラスドライバー	・サイズ: 2 番または PH2	
トルクドライバー (マイナスビット付き)	・トルク 1.2~1.5Nm 対応 ・使用するビット: マイナス 先端刃幅最大サイズ: 6mm	AC 端子台ケーブル取り外し/接続用 注): 6mm を超えた刃幅のものだと 使えない場合がございます。 必ず適切なビットサイズをご用意ください。
トルクレンチ	・トルク 3Nm 対応 ・使用ビット: 六角 呼び径: 4mm	パワーコンディショナーのカバー開閉用
精密マイナスドライバー	サイズ: 1.8~2.3mm	RS485 通信ケーブル取り外し/接続用
ニッパー		
インシュロック	耐候性インシュロックを推奨	
ヘルメット		
作業グローブ		
脚立		必要に応じて

不明な場合はソーラーエッジサポートセンター(050-3198-9430)へお問い合わせください。

[目次へ](#)

1. 交換作業の前に ー 各種設定値の事前確認

新しい交換後 PCS に各種設定する必要があるため、

下記のように交換前 PCS に設定された各種設定値を事前に確認してください。

※確認できない PCS(AC 電源投入されているのに起動できない等)の場合は

同一サイト内にある他の PCS より以下の各種設定値を確認して頂くか、

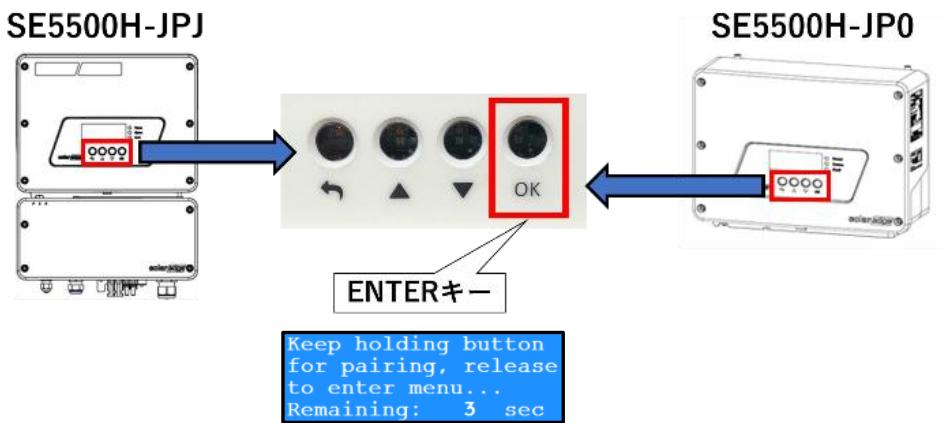
弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

1-1. 系統保護(4 要素)の確認

(1) ENTER キーを下図画面になるまで少し長く触れる

※当 PCS のキーは物理的に押すタイプではなく、光を遮る事で反応する光学センサーとなっています。

故障の原因になりかねますので無理矢理押さえる事なく、指で覆うように当ててください。



・DC スイッチが OFF の場合：

上の画面に切り替わるので、すぐに ENTER キーを離して以下のようなメニュー画面に入る。

・PCS が発電中の場合：

そのまま以下のようなメニュー画面に入る。

※PCS が発電中の状態で、PCS 内部ボタンは操作できません。



ss

(2) ENTER キーで決定、「▲」「▼」キーに触ることで、カーソルを下へスクロールできます。

以下イメージのようないくつかの操作手順を示します。

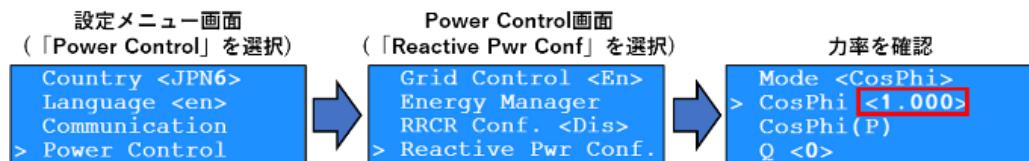


[目次へ](#)

1-2. 力率の確認

※以下の操作で、もしも「Reactive Pwr Conf」が表示されなかった場合は、

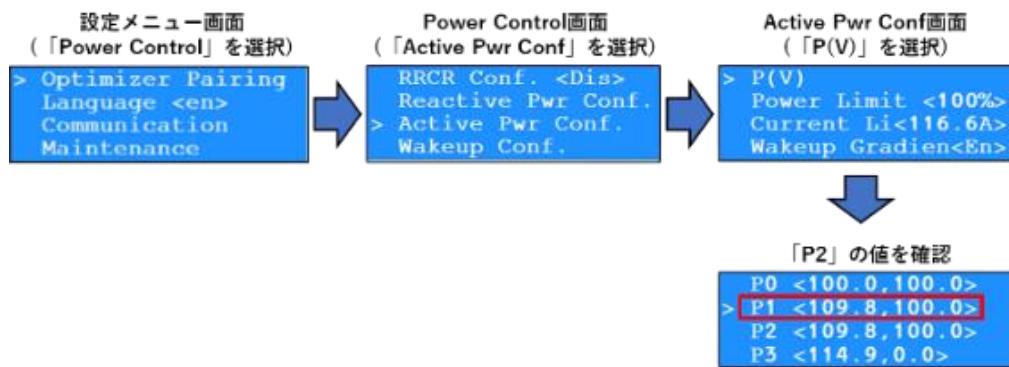
弊社サポートセンターにお問い合わせください。



1-3. 電圧上昇抑制値の確認

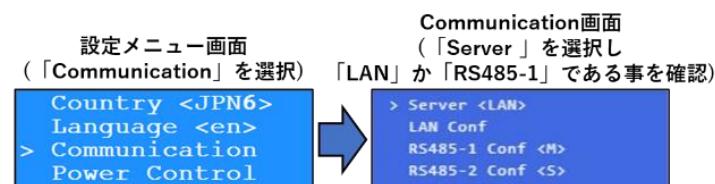
※以下の操作で、もしも「Active Pwr Conf」が表示されなかった場合は、

弊社サポートセンターにお問い合わせください。



1-4. マスターPCS、スレーブPCSのプロトコル設定確認

(1) 下記のように「Server」が「LAN」か「RS485-1」かを確認



(2) 下記のように「Protocol」が「Master」か「Slave」かを確認



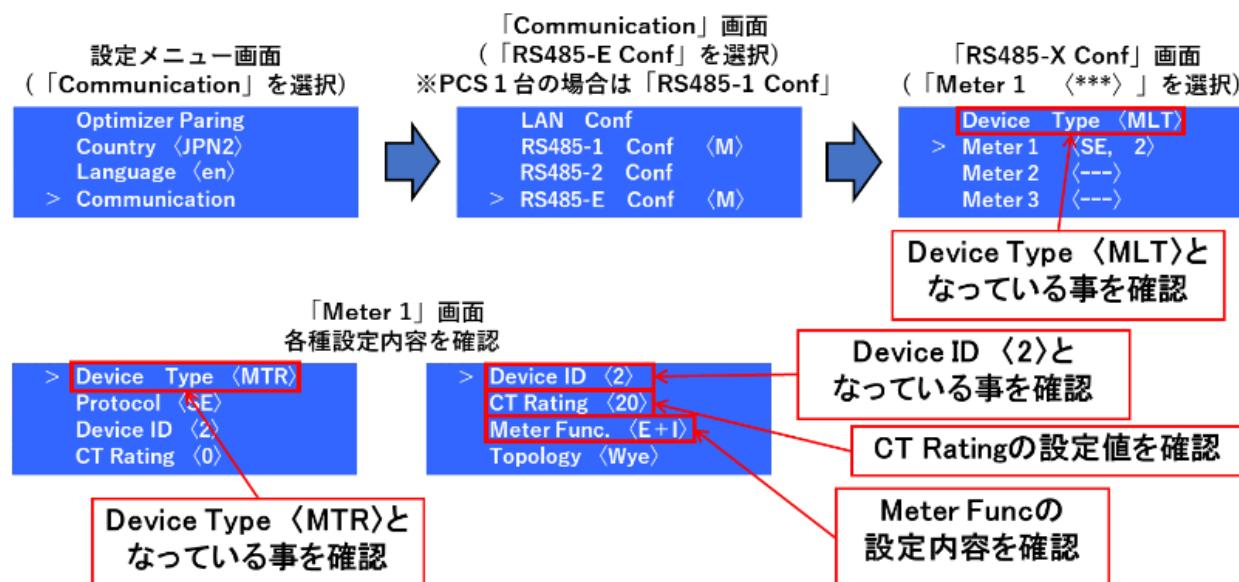
[目次へ](#)

1-5. エナジーメーター関連設定値の確認

※エナジーメーターを使用している場合に限る

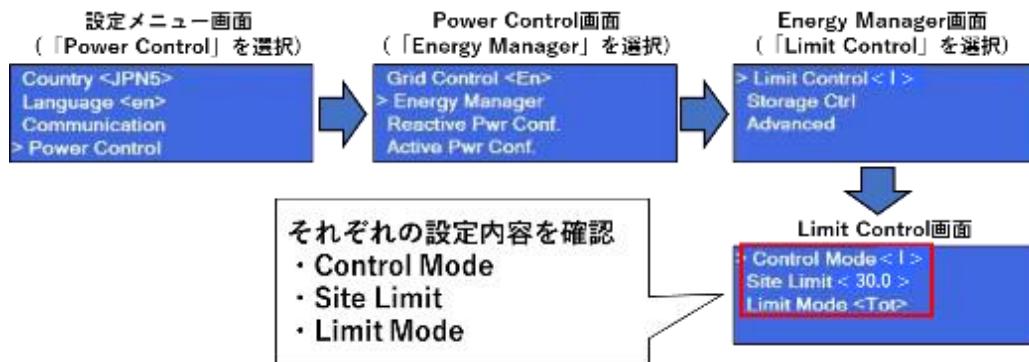
下記情報を確認してください

- ・「RS485-E Conf」画面の「Device Type」: 「MLT」となっている事
- ・「Meter 1」画面の「Device Type」: 「MTR」となっている事
- ・「Meter 1」画面の「Device ID」: 「2」となっている事
- ・「Meter 1」画面の「CT Rating」: 設定値を確認
- ・「Meter 1」画面の「Meter Func.」: 設定内容を確認



[電力制御]

- ・Control Mode
- ・Site Limit
- ・Limit Mode



[目次へ](#)

[OVGR/RPR 設定]

- Device Type

[目次へ](#)

1-6. 固定 IP 各種設定値の確認

※出力抑制機器が使用されており、イーサネットルーターが「DHCP Disable」の設定になっている場合に限る

(1) Device ID の確認

※交換対象 PCS がマスターPCS もしくはスレーブ PCS 問わず確認

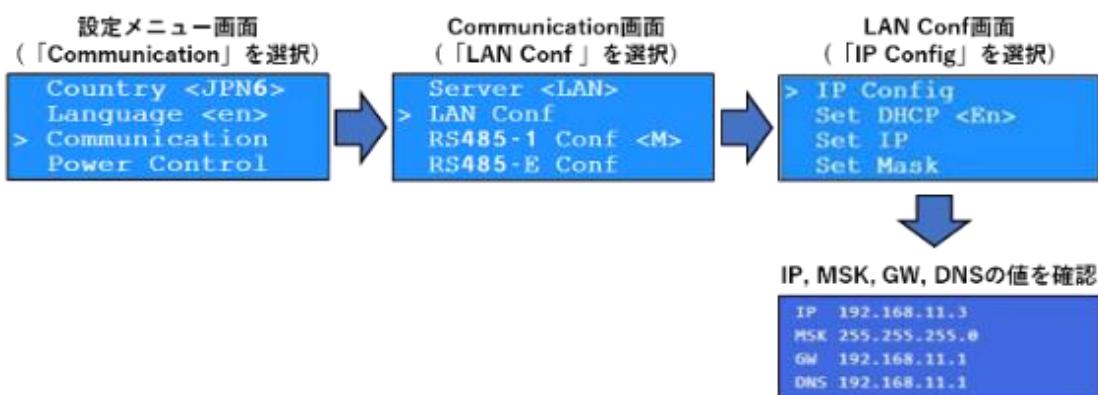


(2) 各種アドレス情報の確認

※交換対象 PCS がマスターPCS の場合に限る

下記情報を確認してください

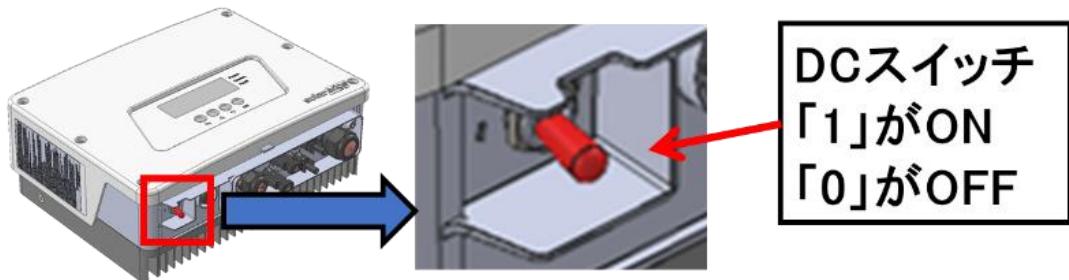
- ・IP:IP アドレス
- ・MSK:サブネットマスク
- ・GW:デフォルトゲートウェイ
- ・DNS:DNS
- ・Modbus TCP: 502 or 1502



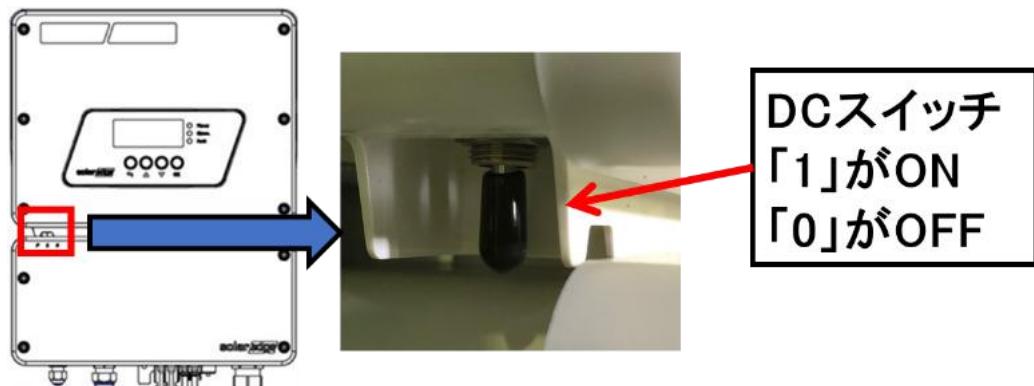
2. 発電停止

2-1. パワーコンディショナ(以降 PCS)の DC スイッチを OFF

[交換対象 PCS が SE5500H-JP0 の場合]

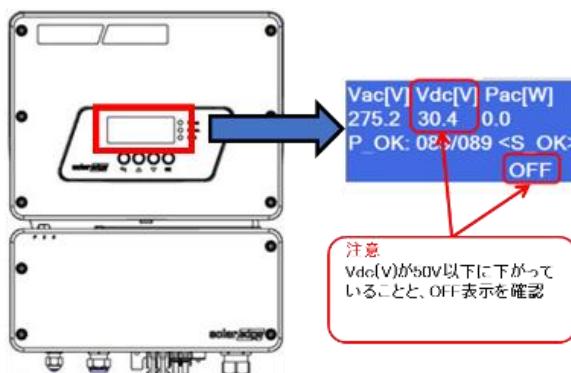


[交換対象 PCS が SE5500H-JPJ の場合]

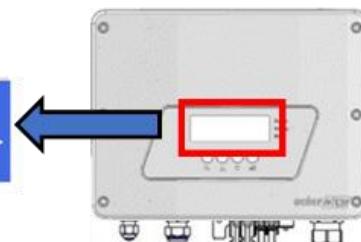


2-2. DC スイッチを OFF 後、5 分以上経過し安全電圧まで下がっていることを確認

SE5500H-JPJ



SE5500H-JP0



[目次へ](#)

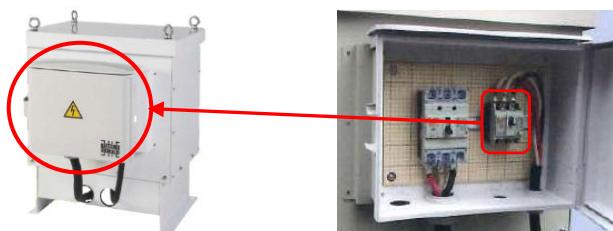
3. AC ブレーカー解列(OFF)とDCケーブル取外し

3-1. AC ブレーカーを OFF にする

【AC ブレーカーについて】

◆低圧発電所

絶縁トランジスのブレーカボックス内(下図参照)もしくは集電箱内



◆高圧発電所

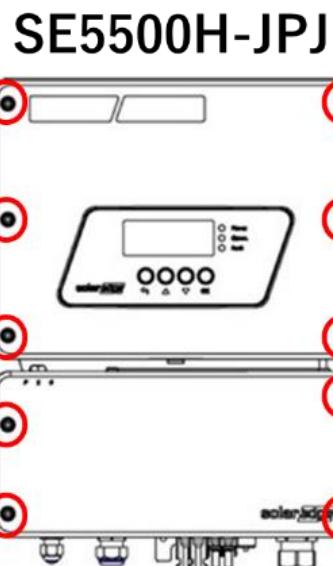
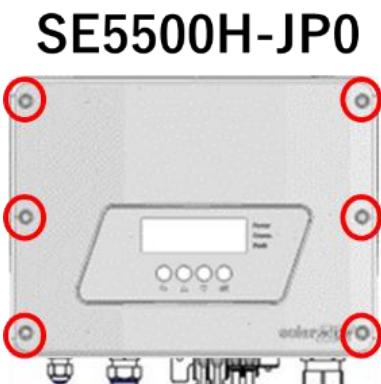
最寄りの交流集電盤内もしくは、キュービクル内

※キュービクル内に交流ブレーカーがある場合は、主任技術者様の手配が必要となります

ソーラーエッジサポートセンターに連絡し指示を仰ぐこと

3-2. フロントカバー取外し

六角レンチ(呼び径:4mm)を使用して、以下の赤丸箇所を外す

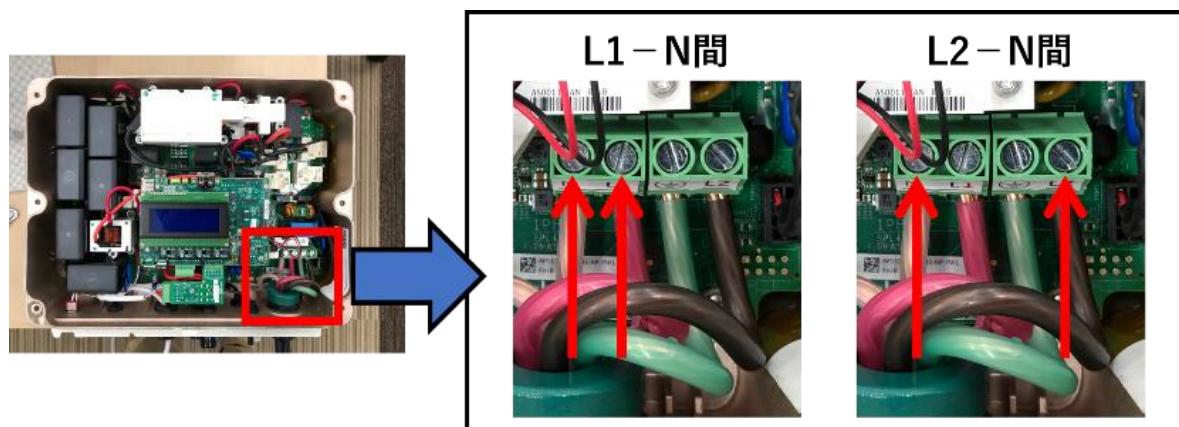


3-3. 交流側の各相(L1-N、L2-N 間)の電圧が 0V である事を確認

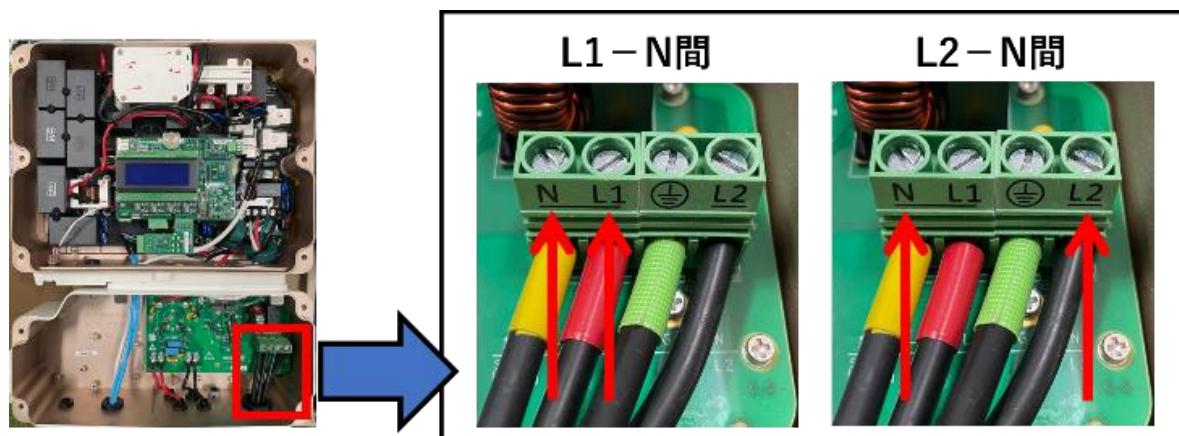
※感電防止のため必ず実施してください

- ・L1-N 間
- ・L2-N 間

[交換対象 PCS が SE5500H-JP0 の場合]



[交換対象 PCS が SE5500H-JPJ の場合]



[目次へ](#)

3-4. DC 入力ケーブルにマーキング後、写真撮影

どのストリングがどの入力端子に接続されていたかが分かるように写真撮影、

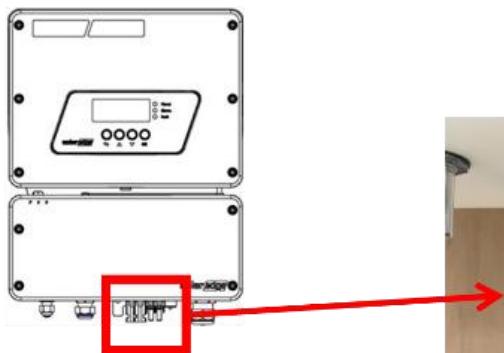
もしくは DC ケーブルにラベル等を付ける



どのストリングがどの端子に接続されているか
分かるようにケーブル+/-それぞれにラベル等
を付ける。

3-5. DC コネクタ取外し治具を使用し、DC 入力ケーブル取外し

SE5500H-JPJ



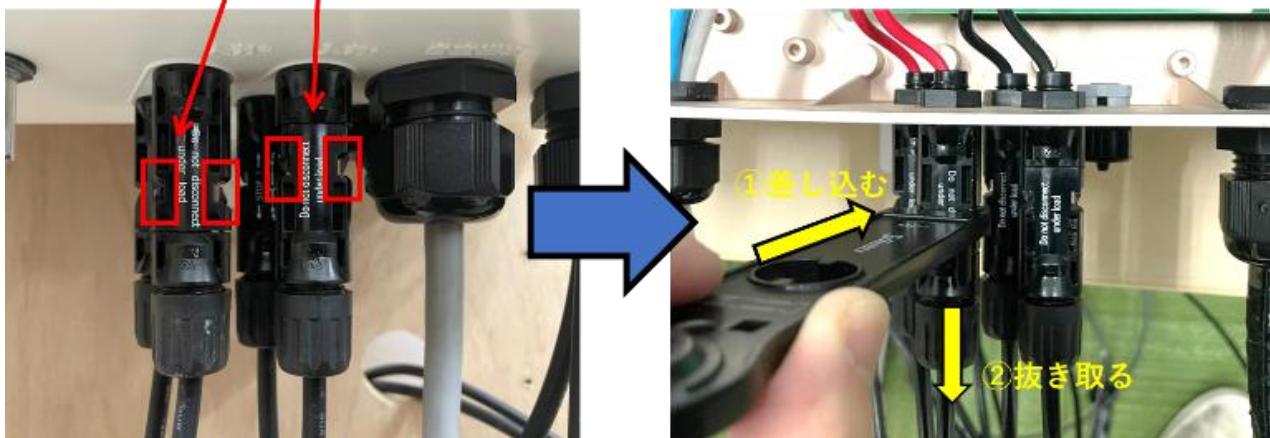
SE5500H-JP0



コネクタ取外し治具 ↓



以下赤枠箇所にコネクタ取外し治具を挿入してコネクタを抜き取る。
※以下赤枠箇所にフィットする爪の治具を使用する事。



4. AC ケーブル取外し

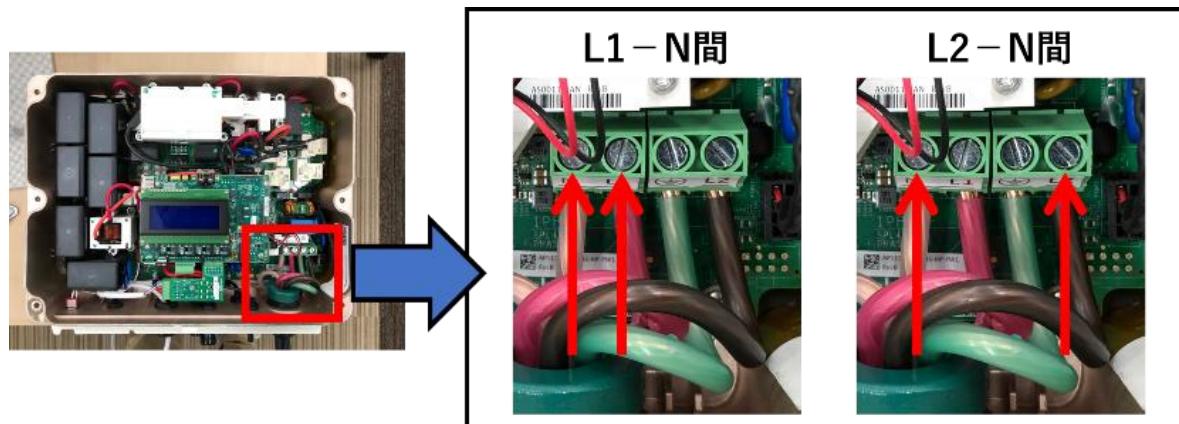
4-1. 各相(L1-N、L2-N 間)の電圧が 0V であることを確認

※手順 3-3 (P11)と同じ作業ですが、感電防止のため必ず実施してください。

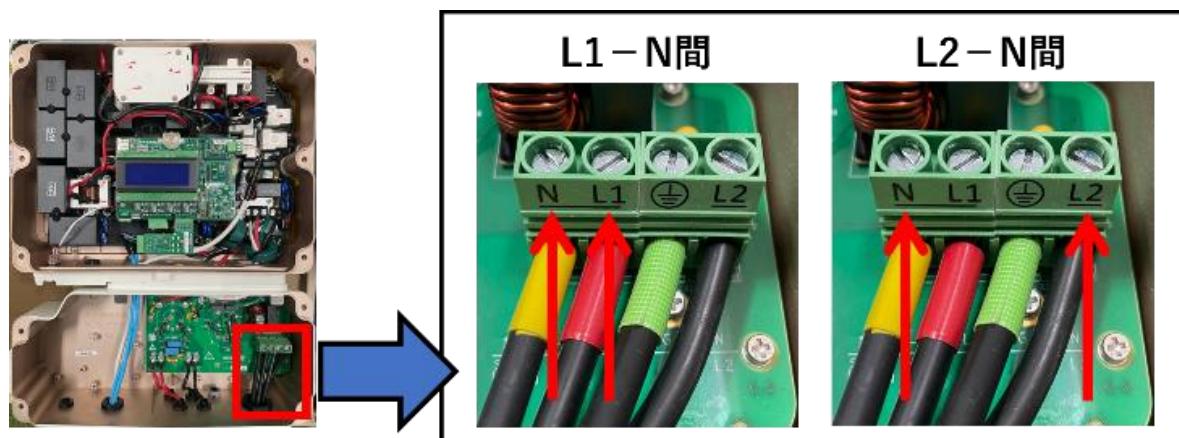
・L1-N 間

・L2-N 間

[交換対象 PCS が SE5500H-JP0 の場合]



[交換対象 PCS が SE5500H-JPJ の場合]



[目次へ](#)

4-2. 各ケーブル(L1、L2、N、アース)にマーキングを実施後、写真撮影

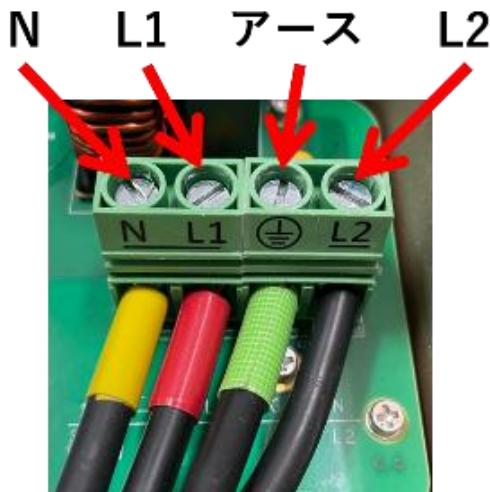
各ケーブルの接続端子が分かるように写真撮影

[交換対象 PCS が SE5500H-JP0 の場合]



N	中性線
L1	L1-L2: 202V L1-N: 101V
アース	交流側 保護接地
L2	L1-L2: 202V L2-N: 101V

[交換対象 PCS が SE5500H-JPJ の場合]



N	中性線
L1	L1-L2: 202V L1-N: 101V
アース	交流側 保護接地
L2	L1-L2: 202V L2-N: 101V

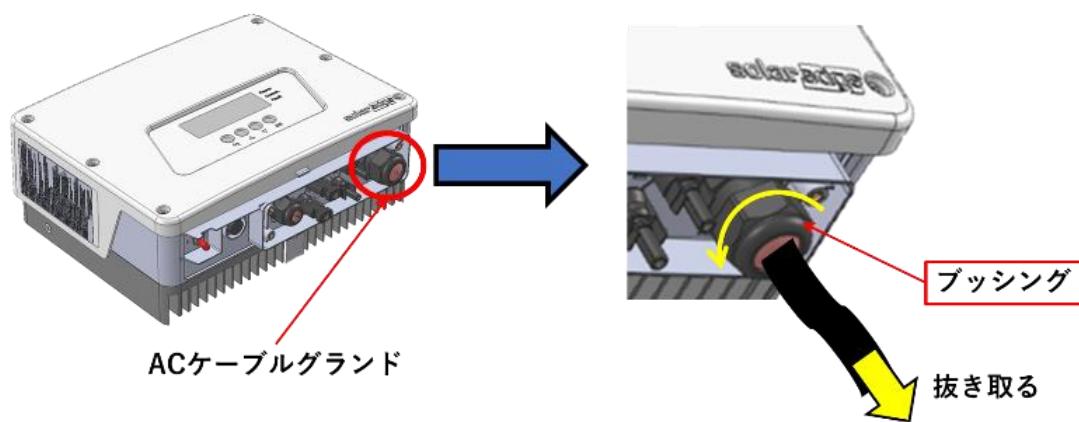
4-3. PCS 右下の端子台スクリューを緩めて、AC ケーブル取外す

P4 準備物のトルクドライバー(1.2~1.5Nm マイナスピット先端刃幅最大サイズ:6mm)を用意

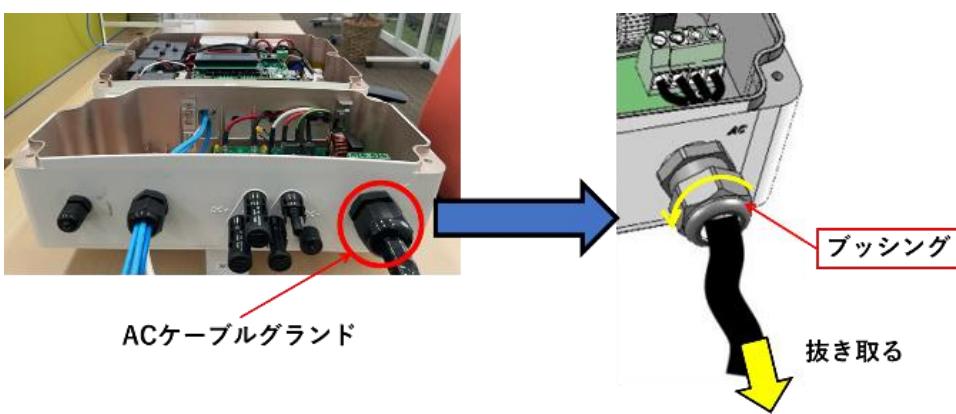


4-4. AC ケーブルを AC ケーブルグランドから抜取る(ブッシングを回して抜取る)

[交換対象 PCS が SE5500H-JP0 の場合]



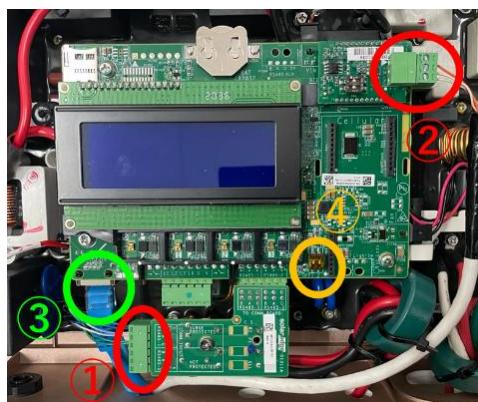
[交換対象 PCS が SE5500H-JPJ の場合]



[目次へ](#)

5. 各種通信ケーブル取外し

5-1. ケーブルマーキングとケーブル配列・配線状態の確認のための写真撮影



② RS485-1通信コネクタ

PCS同士の通信で使用

① エナジーメーター用通信コネクタ

エナジーメーターとの通信で使用

③ LANコネクタ

イーサネットルーターとの通信で使用
(※マスターPCSに限る)

④ 終端抵抗DIPスイッチ

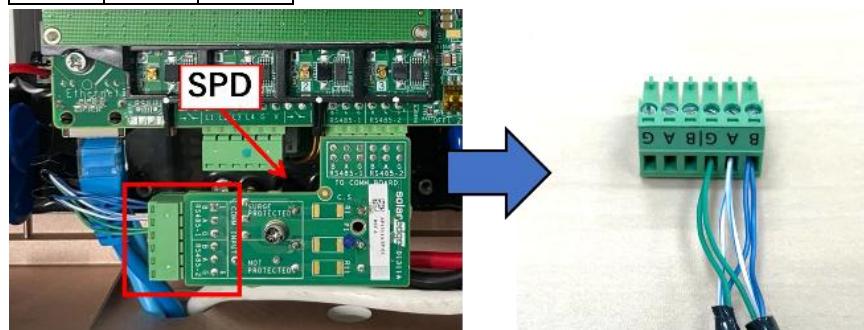
左側スイッチ (RS485-1) : リーダー/フォロワー通信系統内にて
末端に位置するPCSのみ上がっている
右側スイッチ (RS485-2) : 基本的に不使用

[RS485-1 通信ケーブルポート]

※交換後のPCSにも間違なく配線できるようにするために、しっかり交換前の配列・配線状態を把握してください。

SPDが付いていない場合も、RS485-1の各ポート配列・配線は同じです。

RS485-1		
B	A	G

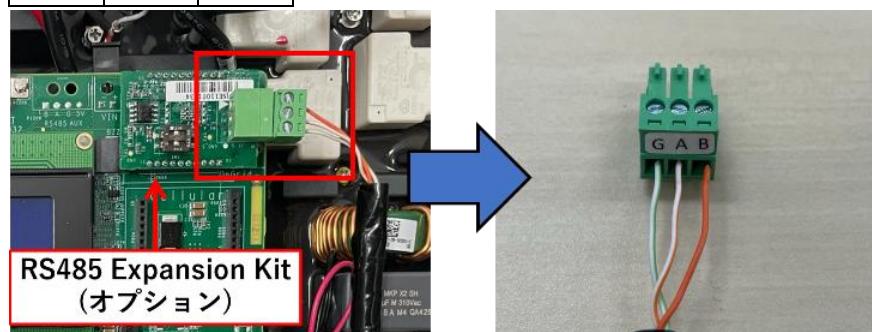


[エナジーメーター用通信ケーブルポート]

※エナジーメーター用ケーブルが使用されていない場合は確認不要ですが、

交換後のPCSにも間違なく配線できるようにするために、しっかり交換前の配列・配線状態を把握してください。

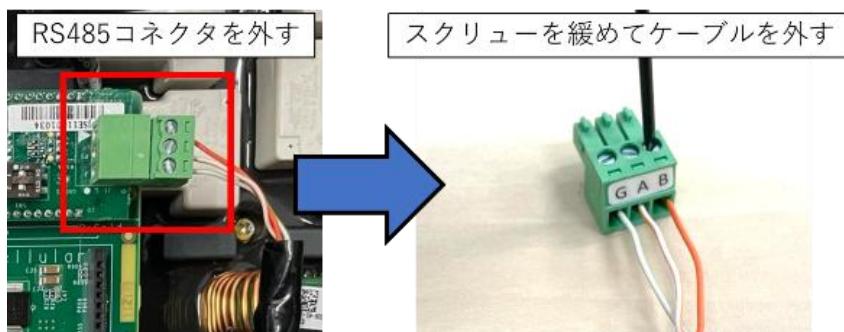
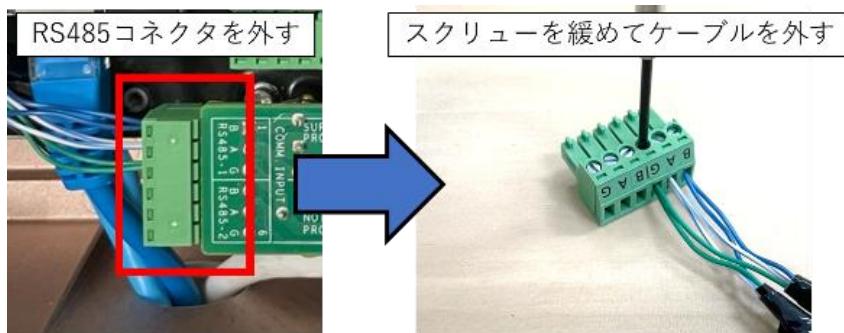
RS485-1		
B	A	G



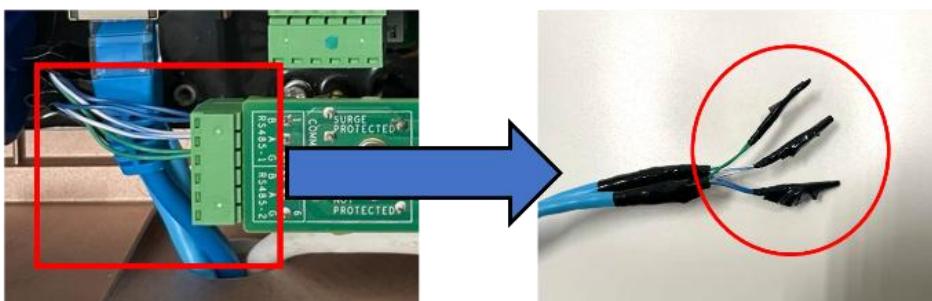
[目次へ](#)

5-2. RS485 コネクタを外して、スクリューを緩めてケーブルを取り外す

※RS485 通信ケーブルをコネクタから取り外した後は、各ポート B,A,G に接続されていたワイヤーがショートしない
ように確実に絶縁養生してください

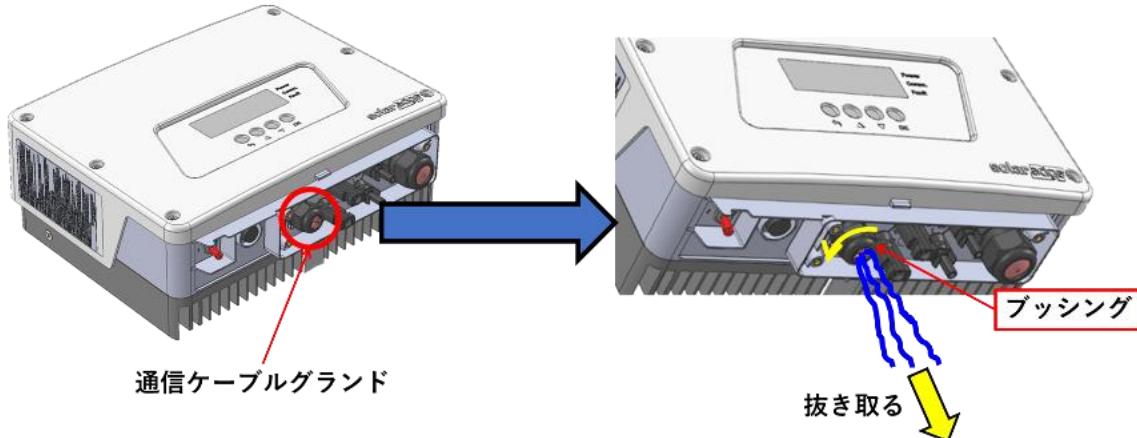


ケーブルをコネクタから取り外した後に、各ポートB,A,Gに接続されていたワイヤーが
ショートしないように確実に絶縁養生する事。

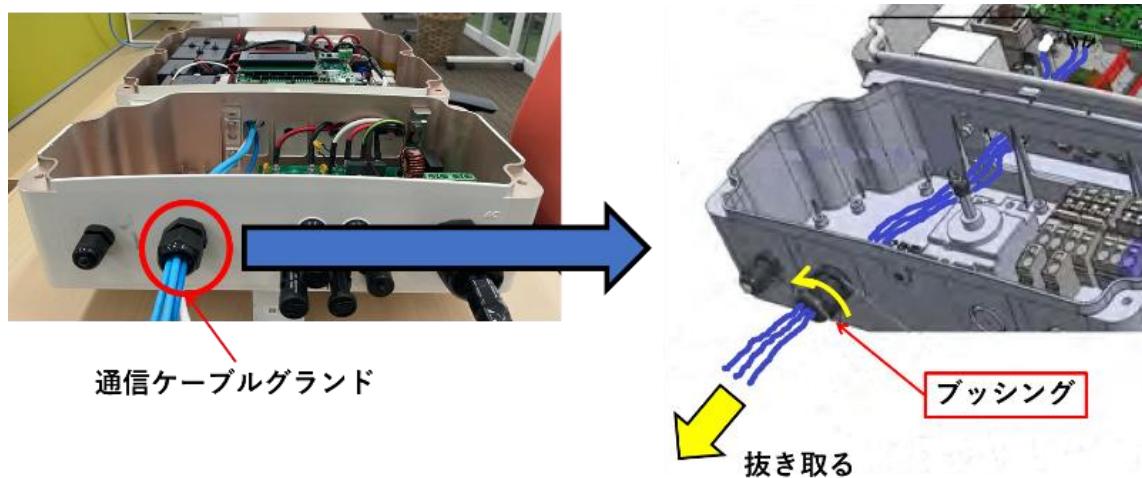


5-3. 通信ケーブルを、通信ケーブルランドから抜取る(ブッシングを回して抜取る)

[交換対象 PCS が SE5500H-JP0 の場合]



[交換対象 PCS が SE5500H-JPJ の場合]



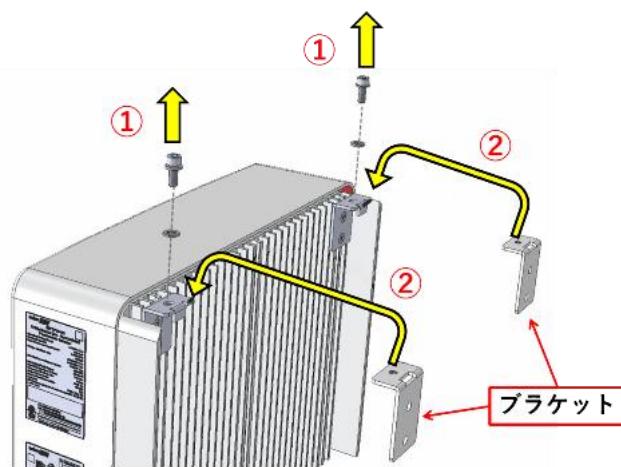
6. PCS 取外しと新しい PCS 取付け

6-1. PCS 本体をブラケットから取り外す

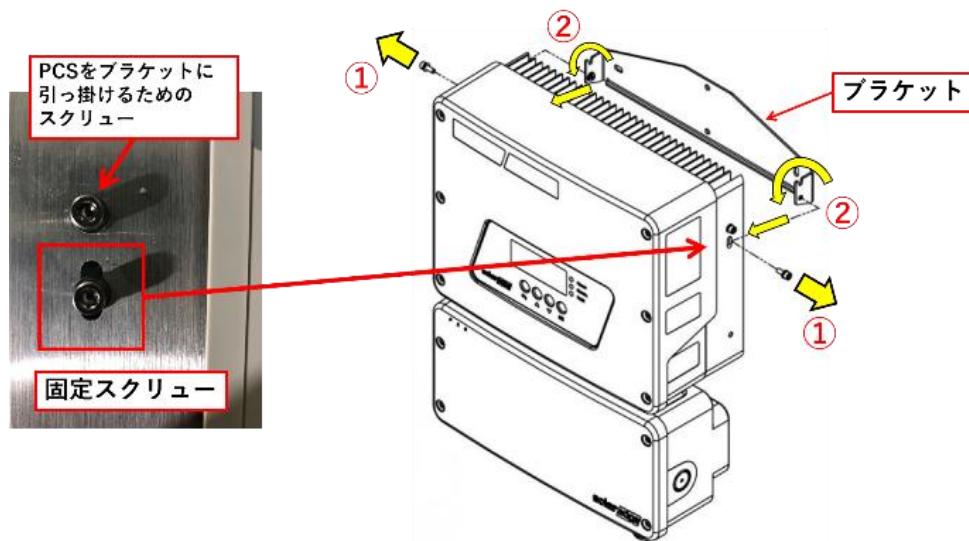
①PCS をブラケットに固定するための左右の固定スクリュー(六角ボルト)を取り外す

②本体がブラケットに引っ掛かっているので、本体を上に挙げてから手前に引く

[交換対象 PCS が SE5500H-JP0 の場合]



[交換対象 PCS が SE5500H-JPJ の場合]



6-2. 取外した PCS の銘板を写真撮影

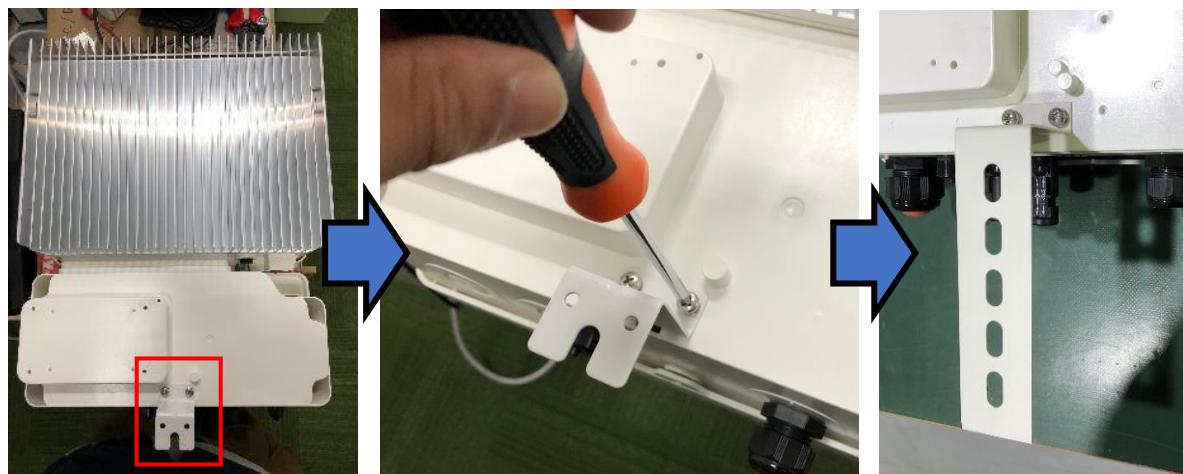
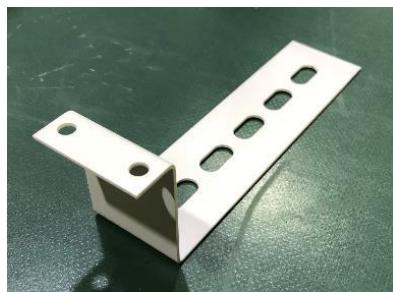
事後の記録のため、シリアル番号が確認できるようにしてください



6-3. 新たに取付ける PCS の銘板を写真撮影(シリアル No が確認できるように)

※手順 6-2 を参照

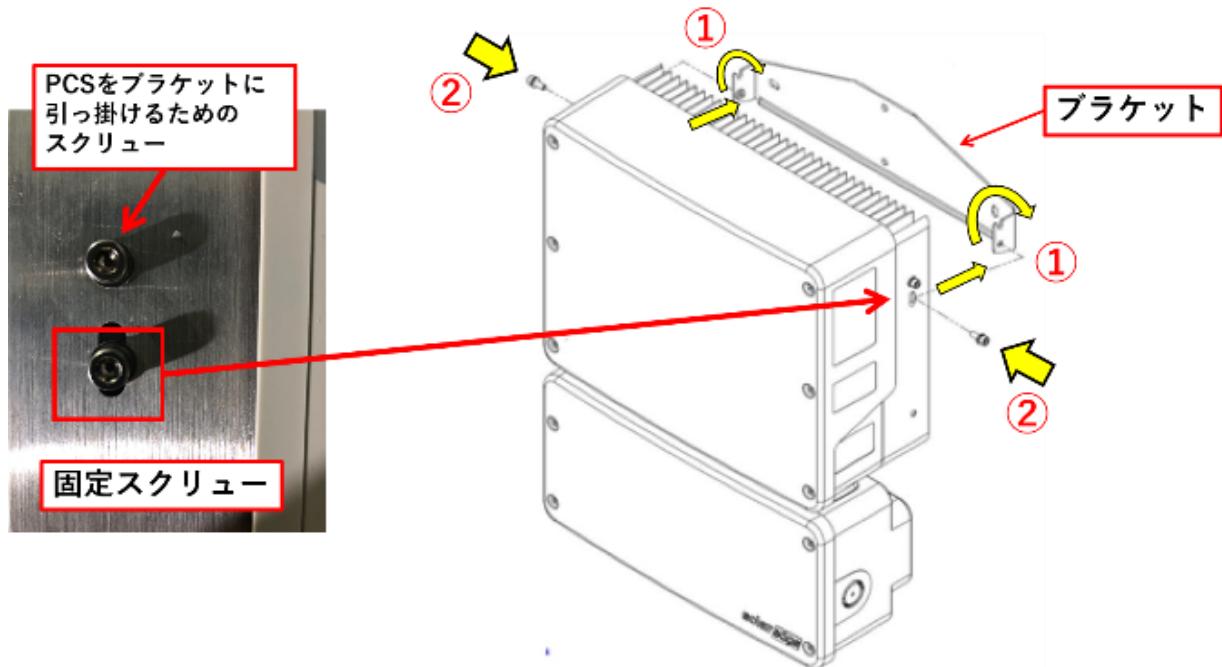
6-4. 交換用 PCS に同梱されている補助プラケットを PCS 本体に取付ける



[目次へ](#)

6-5. 新しいPCSをブラケットに取付ける

- ① PCSのブラケットに引っ掛けるためのスクリューをブラケットのU字型溝に引っかける
- ② PCSをブラケットに固定するための左右の固定スクリュー(六角ボルト)を取り付ける



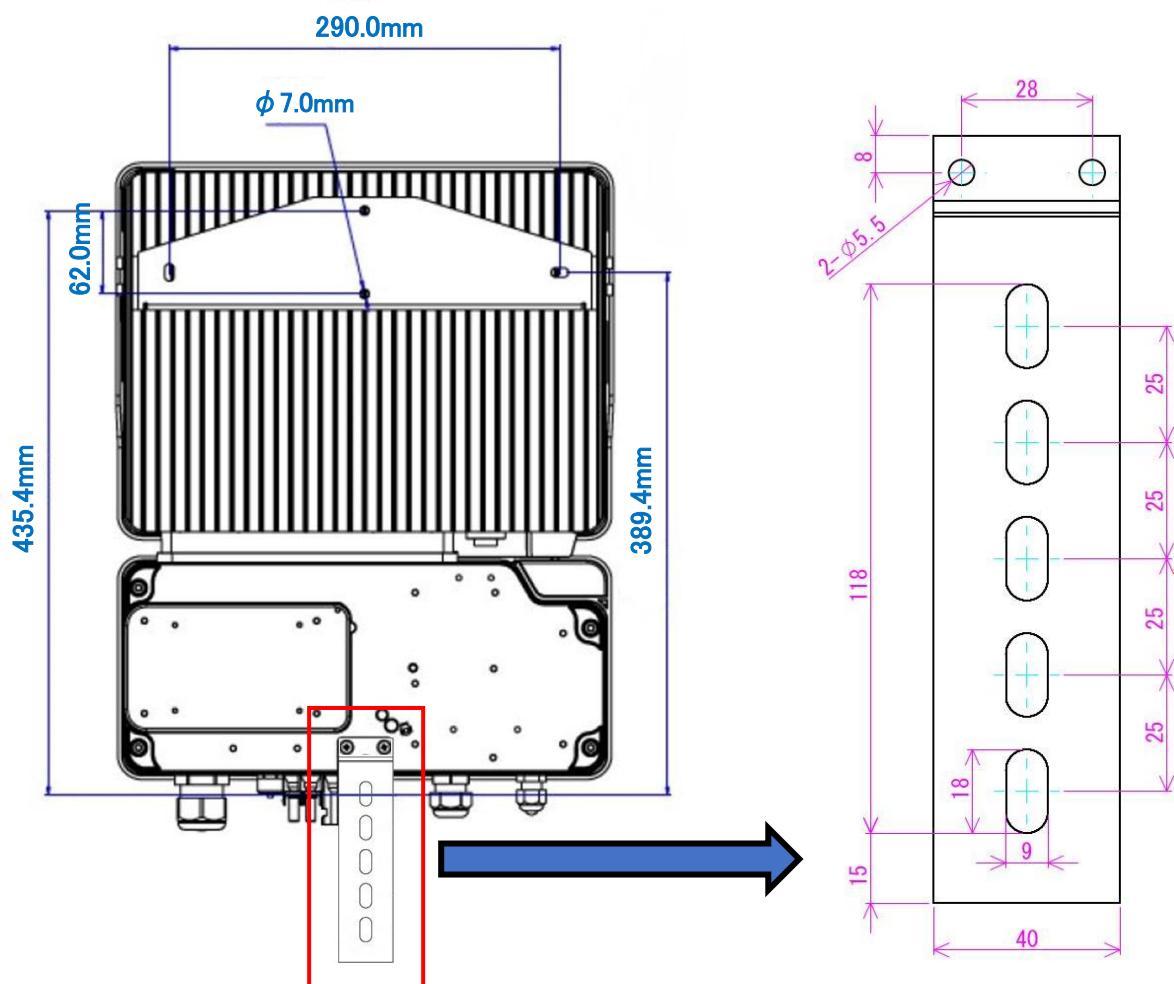
[目次へ](#)

6-6. PCS 本体に取り付けた補助ブラケットを金属台に固定する

※以下写真はモデルが SE5500H-JPJ ですが、形状やブラケット取付位置等は全く同じです。

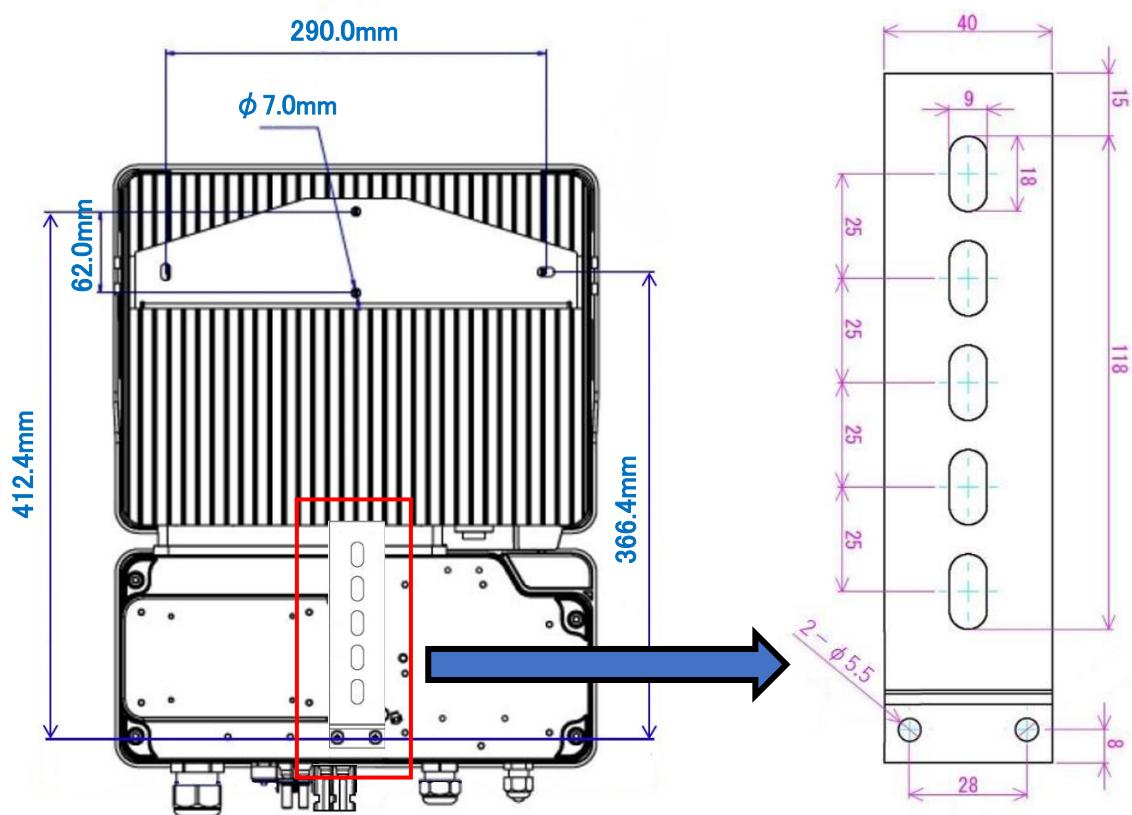


※(注意)以下の寸法に注意してブラケット取付け穴を設けてください。



[目次へ](#)

※(注意)コネクション BOX を取り付ける架台フレームがコネクション BOX 底面より下ではなく、
上に有る場合も考えられます。そのときは、以下のように補助ブラケットが上向きに
なるようにして、以下の寸法に注意してブラケット取付け穴を設けてください。



※〈注意〉上記のように補助ブラケットを取り付けても、コネクション BOX を取り付ける

架台フレームに取付けられないケースも考えられます。

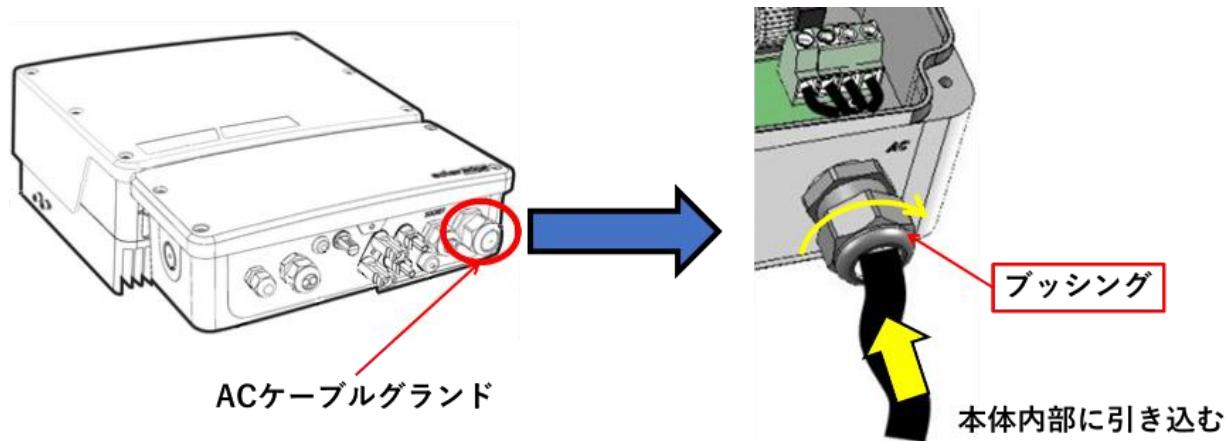
その時は、以下のように、別途取付金具を用意して取り付けるようお願いします。



7. AC ケーブル接続

7-1. AC ケーブルを PCS 本体内部に引込む

- ① ケーブルを内部に引き込む前に、ブッシングをケーブルに通しておく
- ② ケーブルを AC ケーブルグランドから PCS 本体内部に引き込む
- ③ 次の手順 7-2 (P23)でケーブルの長さ調整が必要な可能性があるためブッシングを仮締めしておく

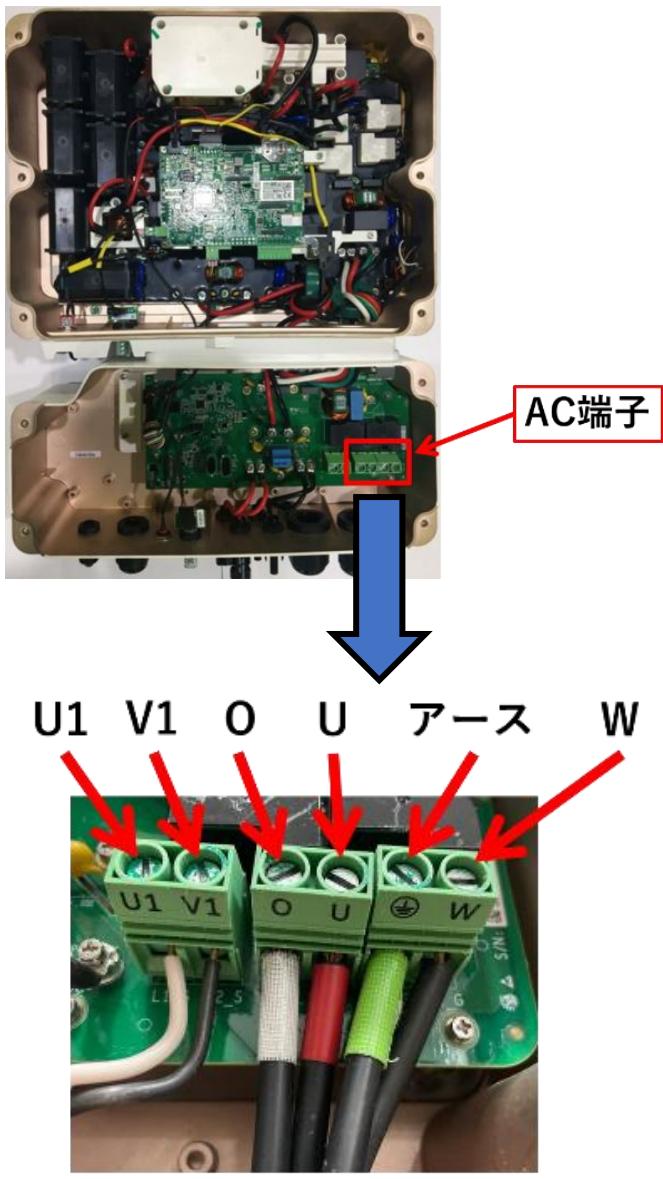


[目次へ](#)

7-2. PCS の AC 端子に AC ケーブルを規定のトルクで接続

手順 4-2 (P15)で確認した通りの配列で各ケーブルを接続させる

※規定トルク: 1.2~1.5Nm±0.15Nm



[交換前 PCS が SE5500H-JP0/JPJ の場合]

L1, L2, N, アースの各種ケーブルを下記の配列で接続してください

L1 → U

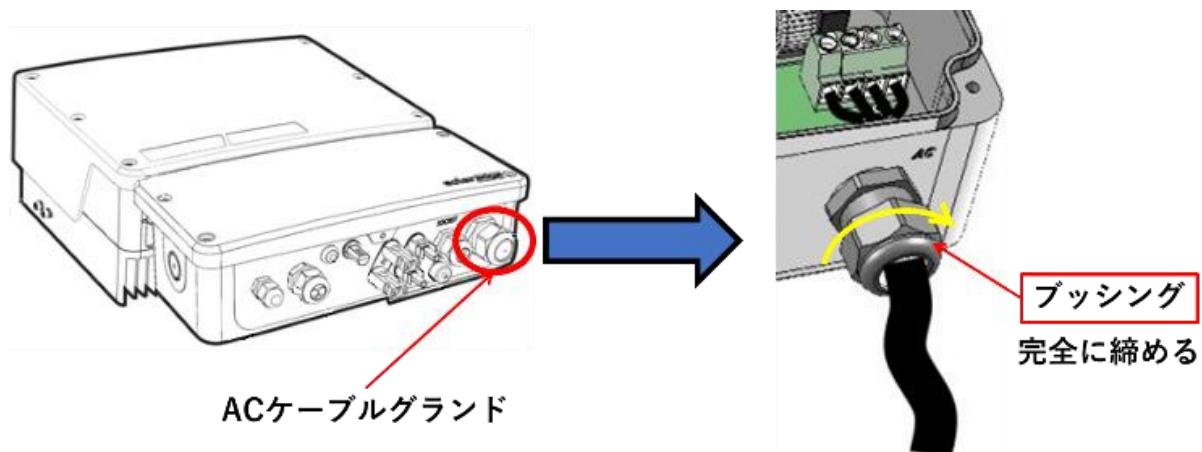
L2 → W

N → O

アース → アース

[目次へ](#)

7-3. AC ケーブルプラグのブッシングを完全に締める

[目次へ](#)

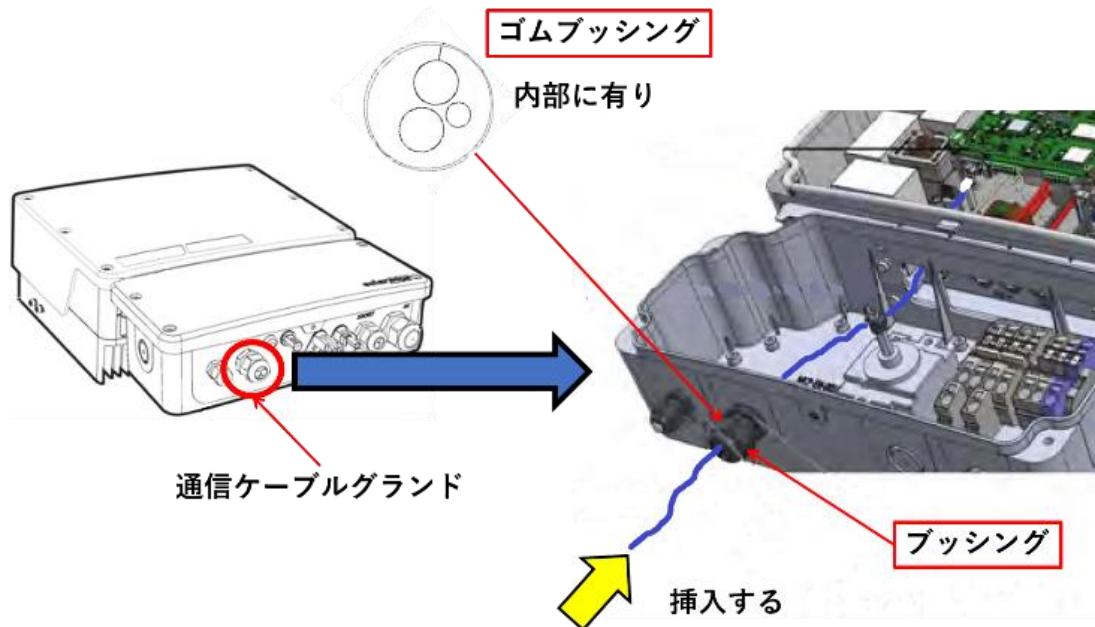
8. LAN ケーブル接続（※交換対象 PCS がリーダーPCS(旧:マスターPCS)の場合）

8-1. LAN ケーブルをゴムブッシングにはめ込み、通信ケーブルランドから内部へ引込む

※ケーブルをゴムブッシングにはめ込む前に、ケーブルをブッシングに通しておくこと

※ゴムブッシングは通せる穴に限りがあります。万が一、使用するケーブル本数が多い場合には

ゴムブッシングを使わずにパテ材で隙間を充填させる事を推奨致します。



8-2. RJ45 コネクタに LAN ケーブルを差込む(コネクタロック音確認)



[目次へ](#)

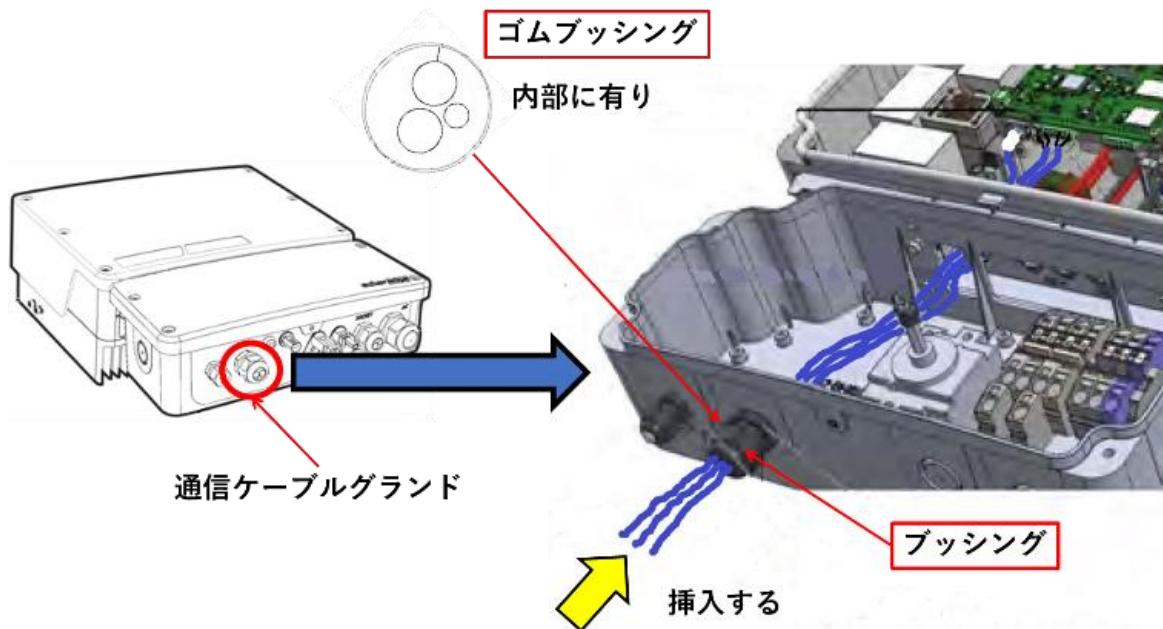
9. 各種通信ケーブル接続

9-1. 各種通信ケーブルをゴムブッシングにはめ込み、通信ケーブルランドから内部へ引込む

※ケーブルをゴムブッシングにはめ込む前に、ケーブルをブッシングに通しておくこと

※ゴムブッシングは通せる穴に限りがあります。万が一、使用するケーブル本数が多い場合には

ゴムブッシングを使わずにパテ材で隙間を充填させる事を推奨致します。

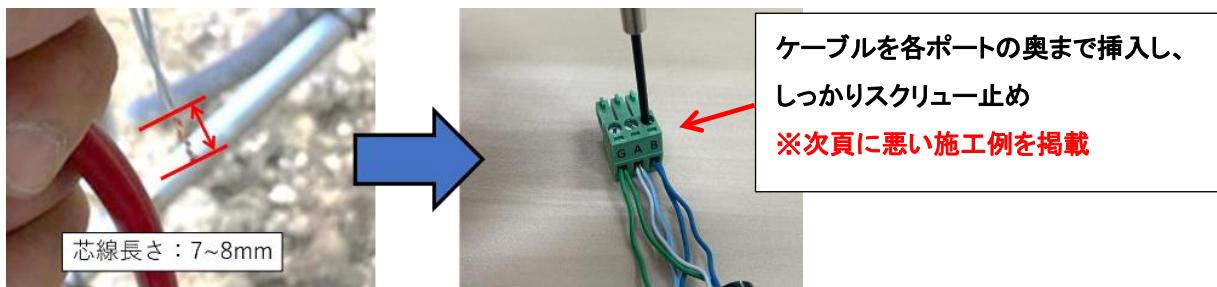


9-2. 各種通信コネクタに通信ケーブルをスクリュー留め

※精密マイナスドライバーの準備物参考)が必要

(手順 5-1 (P17)で撮影した写真を参照)

※ケーブル芯線の剥き出し長さを 7~8mm に調整する事(以下写真参照)



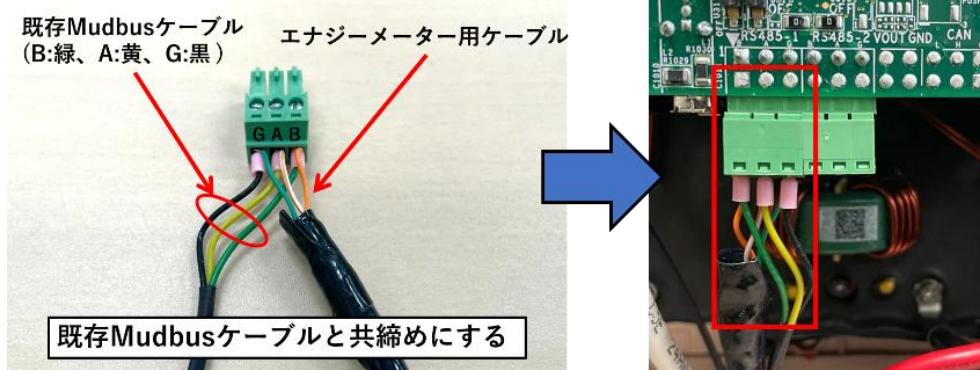
[RS485-1: Modbus/エナジーメーター用通信ケーブルポート]

※RS485-1 ポートに接続してください。

※エナジーメーター用ケーブルが使用されていない場合は確認不要ですが、

交換前の PCS とは間違った配線をしないよう、手順 5-1 で確認した A,B,G 配列通りの配線をお願いします。

RS485-1		
B	A	G

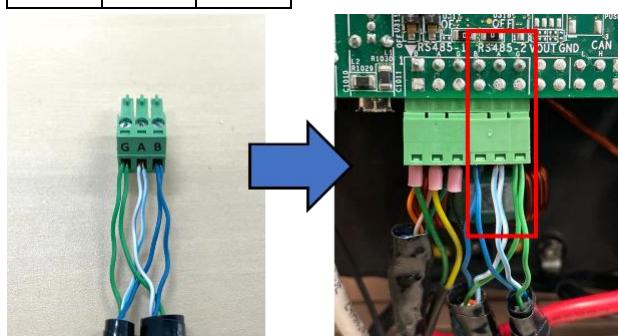


[RS485-2: 通信ケーブルポート]

※交換前は RS485-1 ポートに接続されていましたが、RS485-2 ポートに接続してください。

※交換後の PCS にも間違なく配線できるようにするために、しっかり交換前の配列・配線状態を把握してください。

RS485-2		
B	A	G



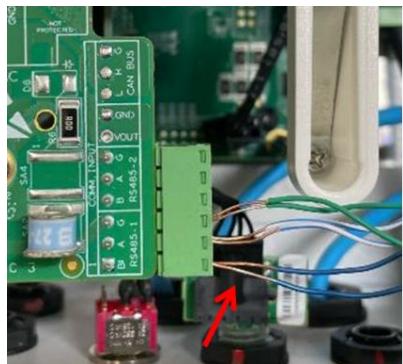
[目次へ](#)

〈各種通信ケーブルのスクリュー留めに関する悪い施工例〉

芯線の過度な露出により、RS485 の B,A,G 各ポート間で芯線同士が接触し、ショートを起こす恐れが有ります。

※下写真は異なるモデルのものではあります、どの製品でも同じ事が言えますので御注意願います

通信ケーブル芯線露出



つまむと芯線同士が接触してしまう

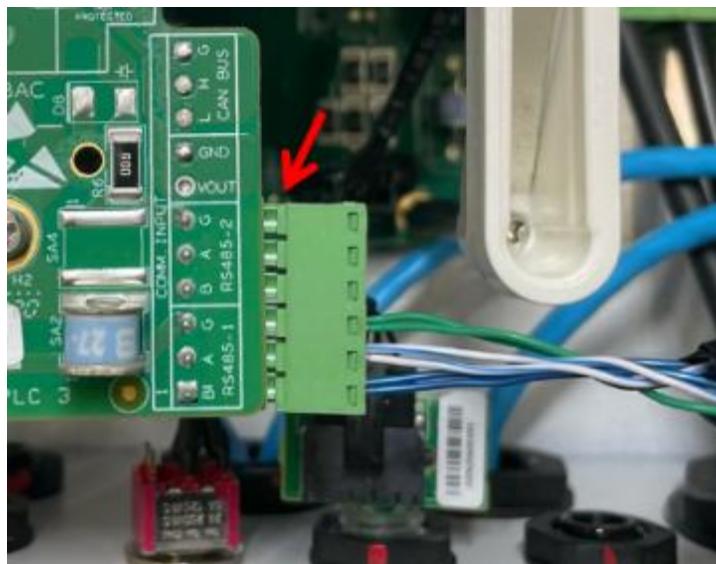


〈各種通信コネクタ接続に関する悪い施工例〉

隙間のある接続状態

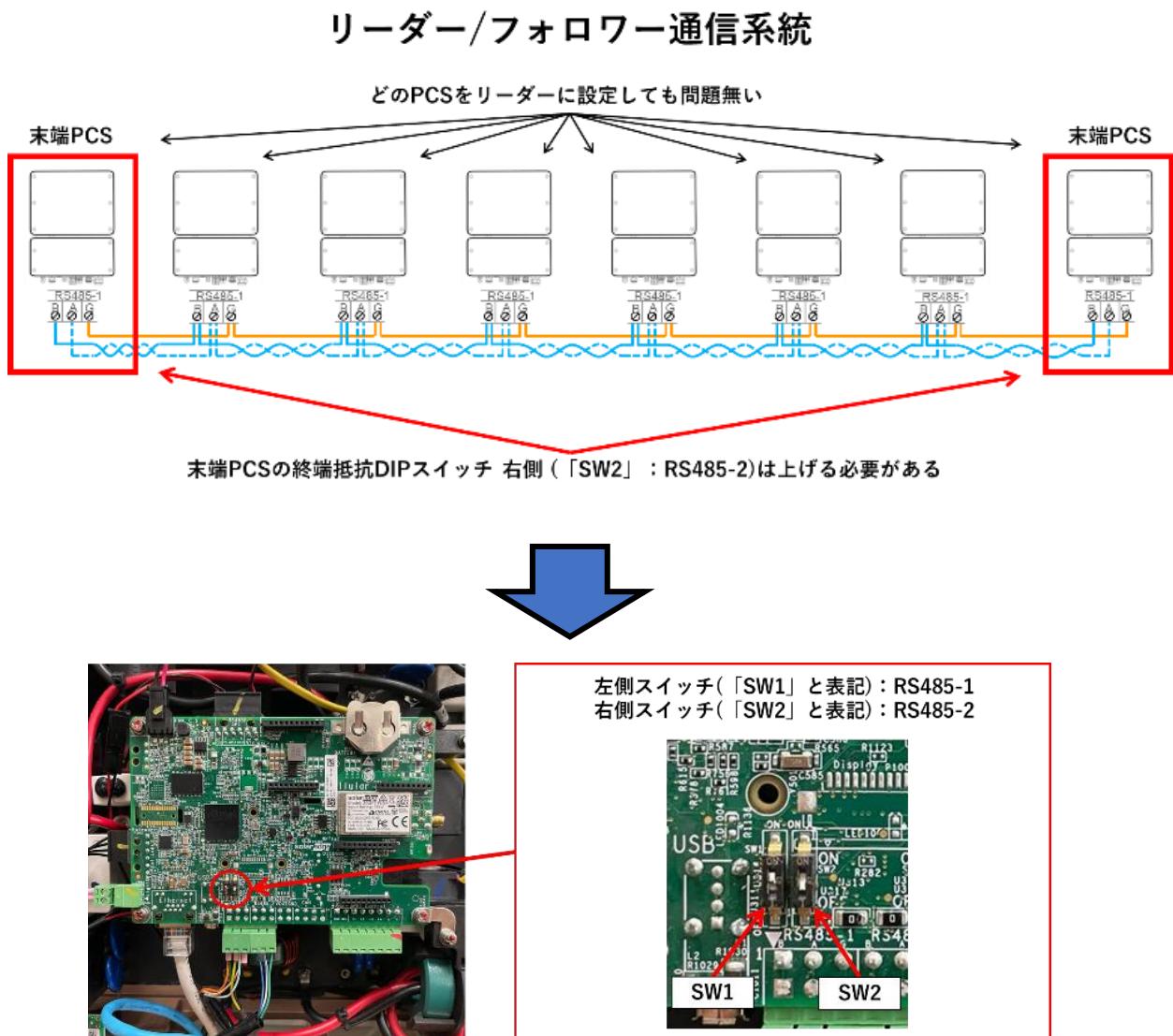
少しの隙間でも SN 比が悪くなり通信が不安定になる可能性が有ります

※下写真は異なるモデルのものではあります、どの製品でも同じ事が言えますので御注意願います



9-3. 終端抵抗 DIP スイッチの設定

手順 4-1 (P14)にて確認した通りに終端抵抗 DIP スイッチを上げれば原則として問題ありませんが、以下イメージのように左側スイッチ(「SW1」と表記)は、エナジーメーターと接続する PCS に限り必要があり、右側スイッチ(「SW2」と表記)は、該当 PCS がリーダー/フォロワー通信系統配線のうち末端に位置する PCS に限り上げる必要があります。イレギュラーを懸念して、念の為、その他の末端ではない PCS のスイッチが上がっていない事も確認してください。



10. DC 入力ケーブル接続

MC4 コネクタ入力に DC 入力ケーブルを接続し写真撮影

(手順 3-4 (P11)で撮影した写真を参照) ***MC4 コネクタはしっかりと奥まで差込むこと**



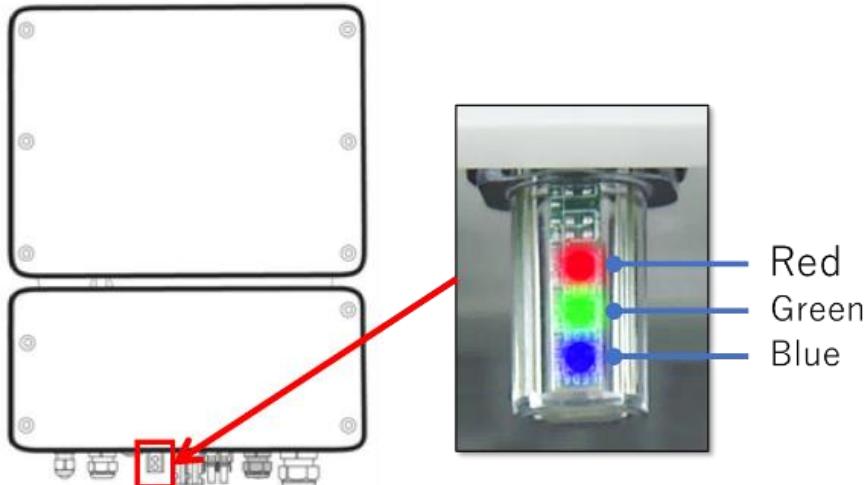
[目次へ](#)

11. AC ブレーカー投入(ON)

手順 3-1 (P10)で解説した AC ブレーカーを ON にする。

ON になると以下のように PCS の LED ランプが全点灯し、

暫くすると Green のみの点滅に切り替わるので、その後に次のステップへ進む。



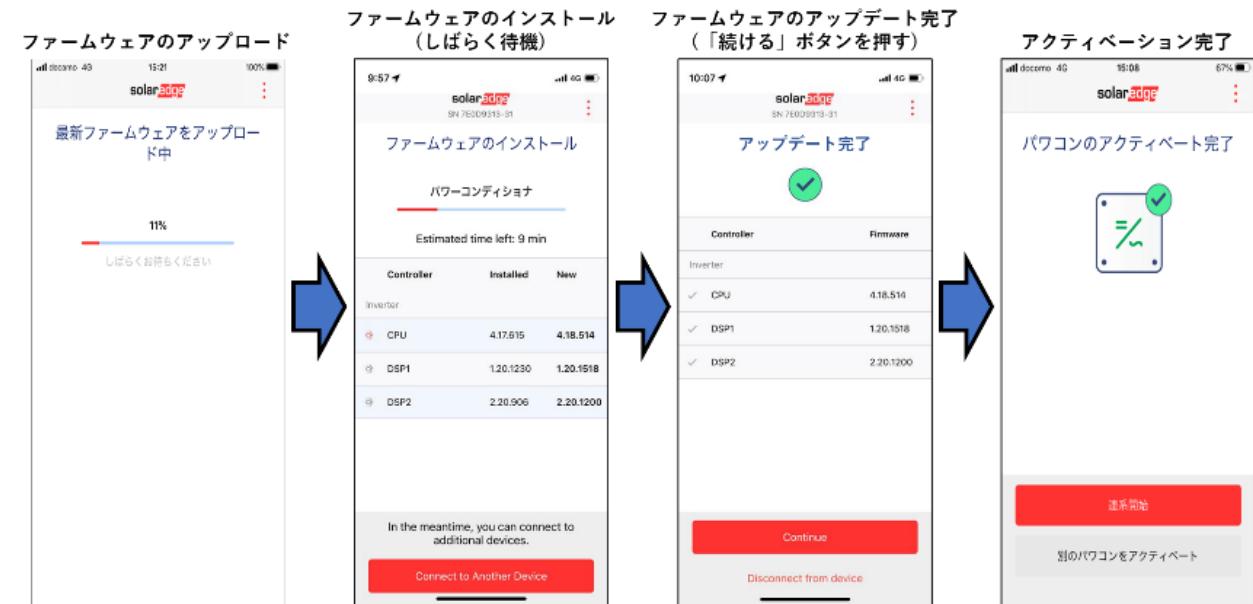
12. SetApp アプリケーションを立ち上げてアクティベーションを行う

12-1. QR コード読み込み～Wifi 接続完了



Wifi 接続が完了したら、そのまま「続ける」ボタンを押して次へ進む

12-2. フームウェアのアップロード～アクティベーション完了



アクティベーションが完了したら、その画面の「連系開始」ボタンを押して次へ進む

[目次へ](#)

13. 国設定

下記①②の順に従って国設定を行う

① 「国と言語の設定」画面にて適切な「国と系統」を選定する

- ・東日本の場合:「日本 単相 50Hz」(※英語表記:Japan 1ph 202V L-N / 3ph 350V L-L 50Hz)を選択
- ・西日本の場合:「日本 単相 60Hz」(※英語表記:Japan 1ph 202V L-N / 3ph 350V L-L 60Hz)を選択

② 「国と系統を設定してください」と表記された赤い枠をタップして、設定を保存する

※赤い四角枠で分かりづらいですが、保存ボタンです

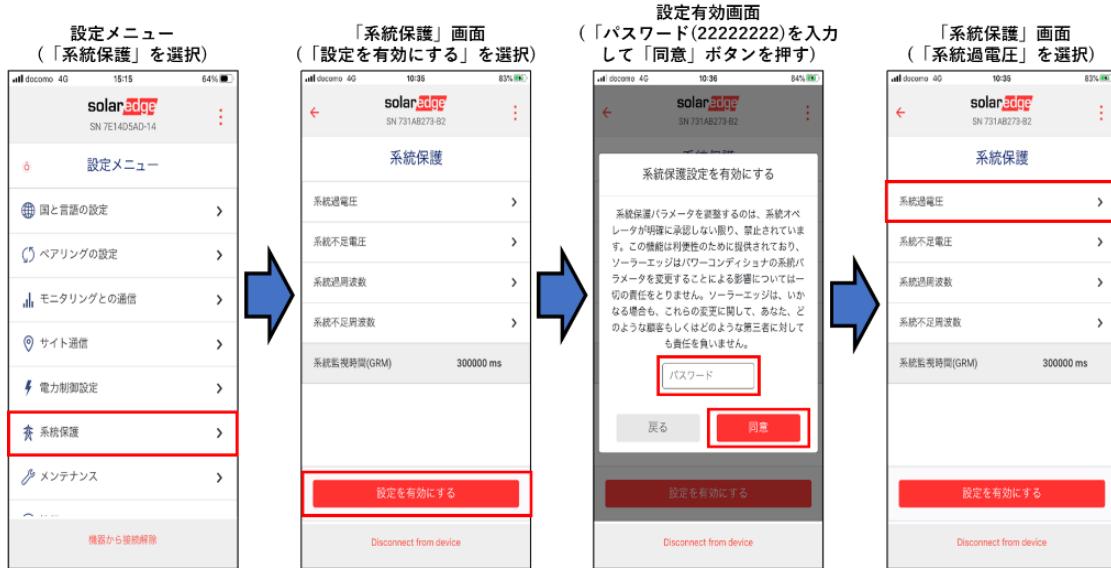


[目次へ](#)

14. 整定値設定

14-1. 系統保護(4要素)の設定

手順 1-1 (P5)で確認した系統保護(4要素)の値を設定する



上記は「系統過電圧」の整定値を確認する場合の手順ですが、

「系統保護」画面にて下記の各整定値を確認してください。

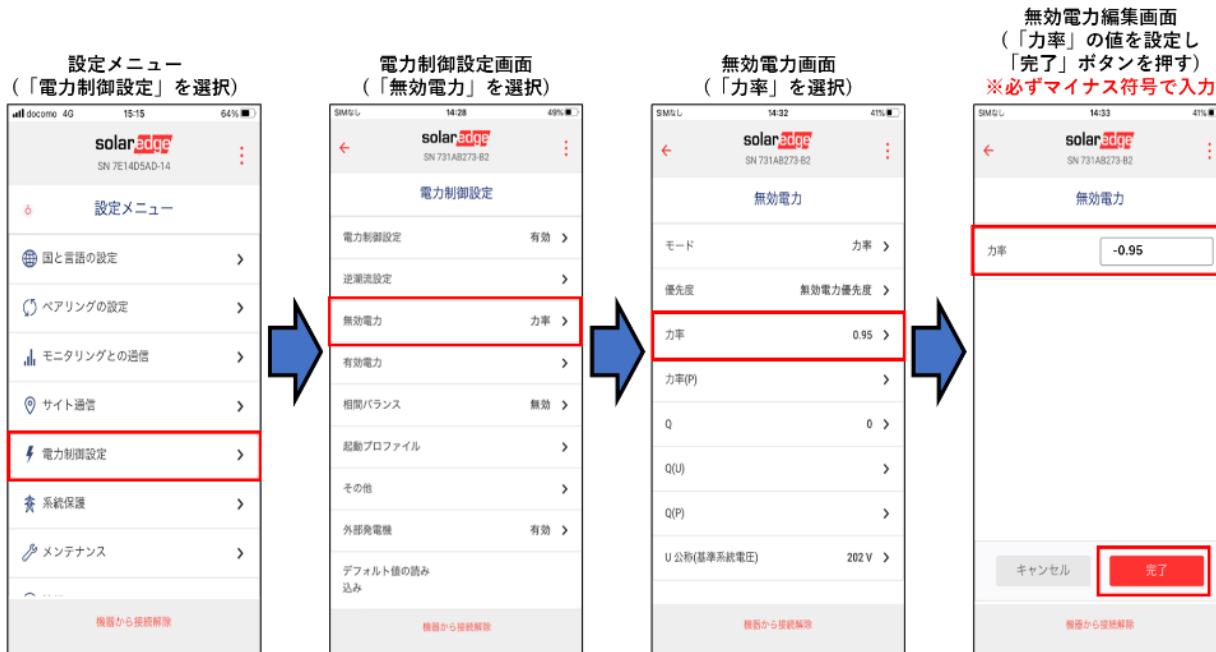
- ・「系統過電圧1」 → 系統過電圧 1: OVR 電圧[V]、時限[ms]
- ・「系統不足電圧1」 → 系統不足電圧 1: UVR 電圧[V]、時限[ms]
- ・「系統過周波数1」 → 系統過周波数 1: OFR 周波数[Hz]、時限[ms]
- ・「系統不足周波数1」 → 系統不足周波数 1: UFR 周波数[Hz]、時限[ms]
- ・「系統監視時間(GRM)」 : 自動復帰時限[ms]

[目次へ](#)

14-2. 力率の設定

手順 1-2 (P6)で確認した力率の値を設定する

※必ずマイナス符号で入力



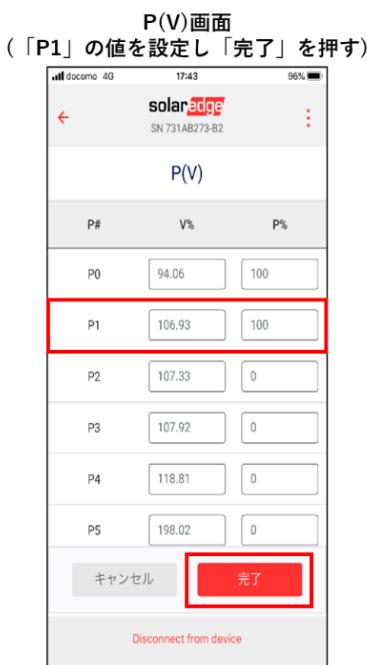
14-3. 電圧上昇抑制値の設定

手順 1-3 (P6)で確認した電圧上昇抑制値の値を設定する



↓ 次頁へ続く

目次へ



14-4. リーダー(旧:マスター)の設定

※交換対象 PCS がリーダー(旧:マスター)の場合に限る

手順 1-4 (P6)で確認したプロトコルが「Master」の場合、以下イメージのように「フォロワー」から「リーダー」に設定変更。

手順 1-4 (P8)で確認したプロトコルが「Slave」の場合は、設定変更不要。

PCS 複数台設置のサイトでプロトコルが「Slave」の場合は、何もせず「5. RS485 通信の確立(※リーダーPCS(旧:マスターPCS)にて操作実施)」へ進む



[目次へ](#)

14-5. エナジーメーター各種設定値の設定

※エナジーメーターを使用している場合に限る。リーダーにのみ設定。

手順 1-5 (P7)で確認したエナジーメーター各種設定内容を設定する

(1) RS485-1 のプロトコルを Modbus (マルチデバイス)に設定する



(2) メータープロトコルをソーラーエッジに設定する



(3) メーター機能を「逆潮流メーター+順調流メーター」に設定する



(4) メーターのデバイス ID を設定する



(5) CT 定格を設定する

- ・CT モデル SE-CTML-0350-070 を使用する場合 : 70
- ・CT モデル SECT-SPL-100A-A を使用する場合 : 100



(6) メーターステータスを確認

順潮流・逆潮流が正しいかを確認



[目次へ](#)

14-6. 固定 IP 各種設定値の設定

手順 1-6 (P8)で確認した固定 IP 各種設定値を設定する

※出力抑制機器が使用されており、イーサネットルーターが「DHCP Disable」の設定になっている場合に限る

(1) Modbus TCP ポート設定



目次へ

(2) 各種 IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS 設定



(3) デバイス ID 設定

目次へ

15. RS485 通信の確立(※リーダーPCS(旧:マスターPCS)にて操作実施)

[リーダーPCS(旧:マスターPCS)がSE**K-JP0/JPH/JPJ, SE5500H-JP0/JPJモデルの場合]

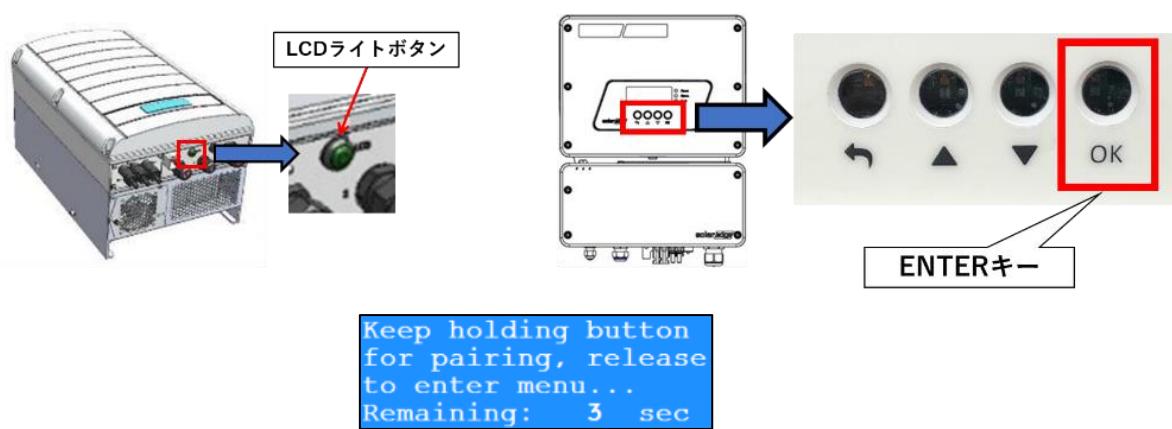
(1) メニュー画面に入る

LCD ライトボタン、もしくは ENTER キーを下図画面になるまで少し長押し

※マスター機が交換した PCS ではなく、発電中の場合、内部ボタンでメニュー画面に入れません。

※SE5500H-JP0/JPJ のキーは物理的に押すタイプではなく、光を遮る事で反応する光学センサーとなっています。

故障の原因になりかねますので無理矢理押さえる事なく、指で覆うように当ててください。



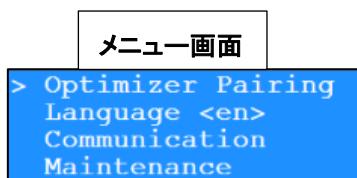
・DC スイッチが OFF の場合:

上の画面に切り替わるので、すぐに LCD ライトボタンを離してメニュー画面に入る。

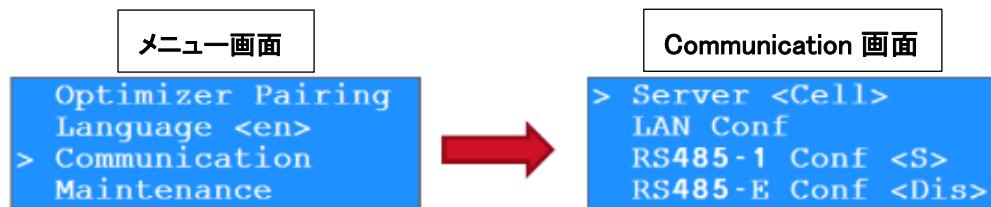
・PCS が発電中の場合:

そのままメニュー画面に入る。

※PCS が発電中の状態で、PCS 内部ボタンは操作できません。

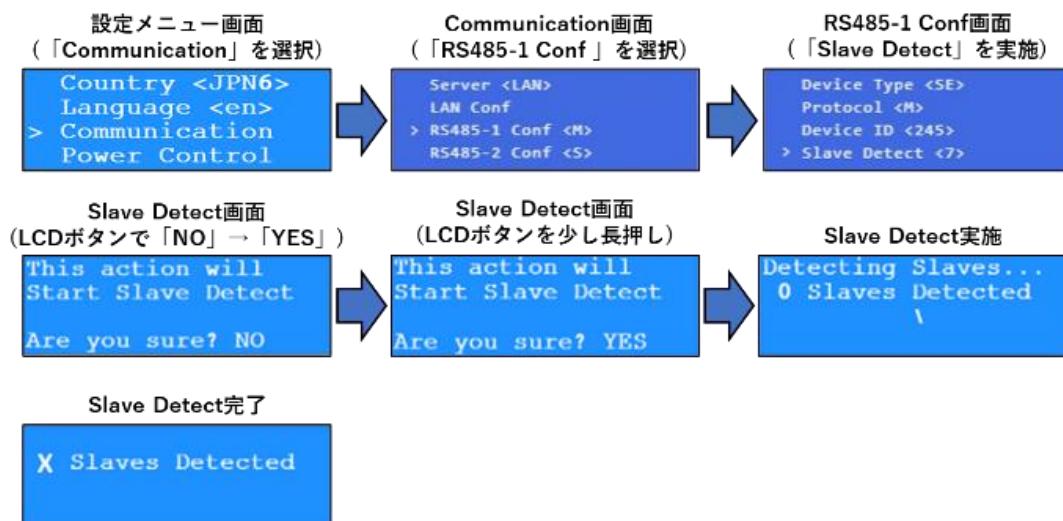


(2) 「↑」「↓」キーでカーソルが移動するので“Communication”に合わせて ENTER キーを押し、Communication 画面に入る



[目次へ](#)

(3) 「↑」「↓」キーでカーソルを移動させ、ENTER キーで選択しながら下図に沿って操作



(4) 上記、最終画面の “X” が実際のスレーブ台数と一致しているかを確認

一致していない場合は、RS485 配線を確認 (配線接続を触る場合は、交流ブレーカーを解列(OFF)すること)

(5) メニュー各階層で ESC キーを押して通常画面に戻す

[リーダーPCS (ID: マスターPCS)が SE**K-JPI, SE5500H-JPJ00BNJ*モデルの場合]

SE**K-JPI の場合は「RS485-1」を選択、

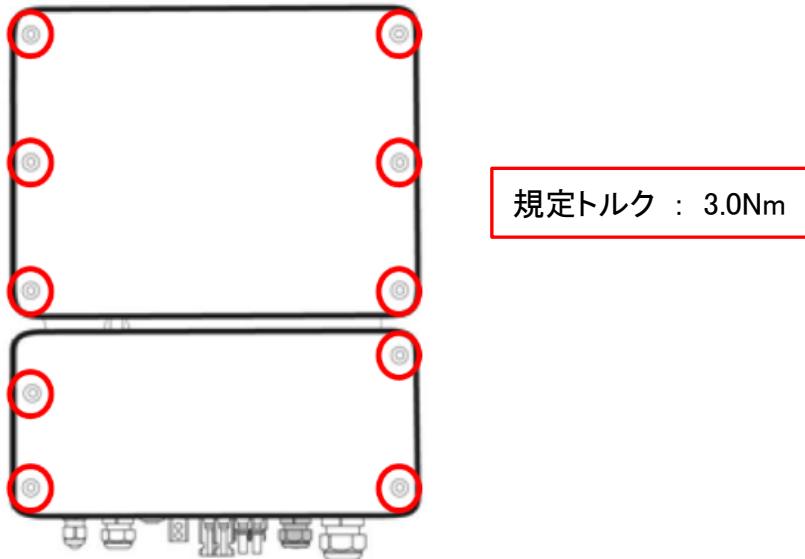
SE5500H-ACS の場合は「RS485-2」を選択して操作してください



目次へ

16. フロントカバー取り付け

*六角ボルトは、規定のトルクで締付ける



[目次へ](#)

17. 出力制御機器を再起動

※エナジーソリューションズもしくはラプラスの出力制御機器を使用している場合に限る

出力制御用設定の初期化を出力制御機器から実施します。

必ずエナジーソリューションズ様もしくはラプラス様に御連絡の上、

再起動するようにしてください

・エナジーソリューションズ様連絡先：

TEL: 03-6256-8095

メール: info@energy-itsol.com

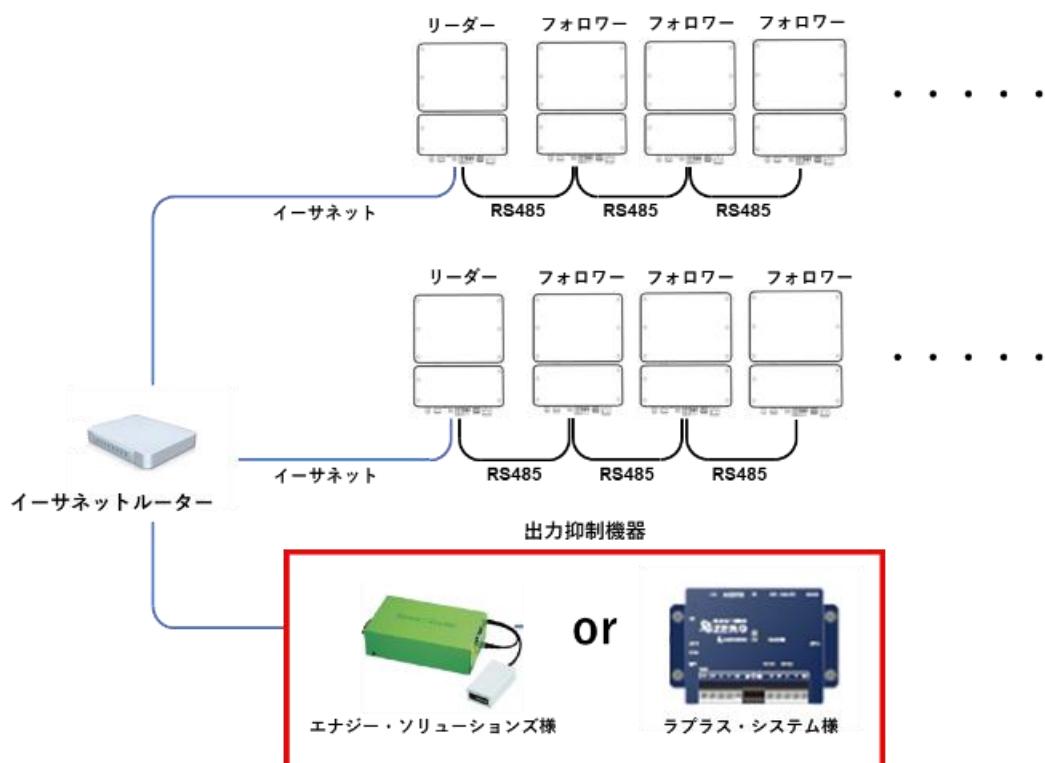
Web: <https://www.energy-itsol.com/>

・ラプラス・システム様連絡先：

本社営業 TEL: 075-634-8073

東京営業 TEL: 03-6457-8026

Web: <https://www.lapsys.co.jp/>



18. オプティマイザー ペアリング

※ペアリングとは?: PCS が接続されたオプティマイザー(以降 OP)を認識して、
発電中に各 OP データを読み込んだりするために必要な作業
これが実施されていなければ、PCS は発電しない

18-1. SetApp アプリでペアリングを実行



18-2. 「P-OK」のカウントが上がっていく

実際に PCS に接続されているオプティマイザの数と一致することを確認 ※10~20 分程度かかる



[目次へ](#)

18-3. 系統待ち時間(遅延時間:300秒)経過後、自動的に発電する



目次へ

19. モニタリングサイトにて該当 PCS のシリアル番号を置き換える

交換前の PCS シリアル番号と交換後の PCS シリアル番号を控えて

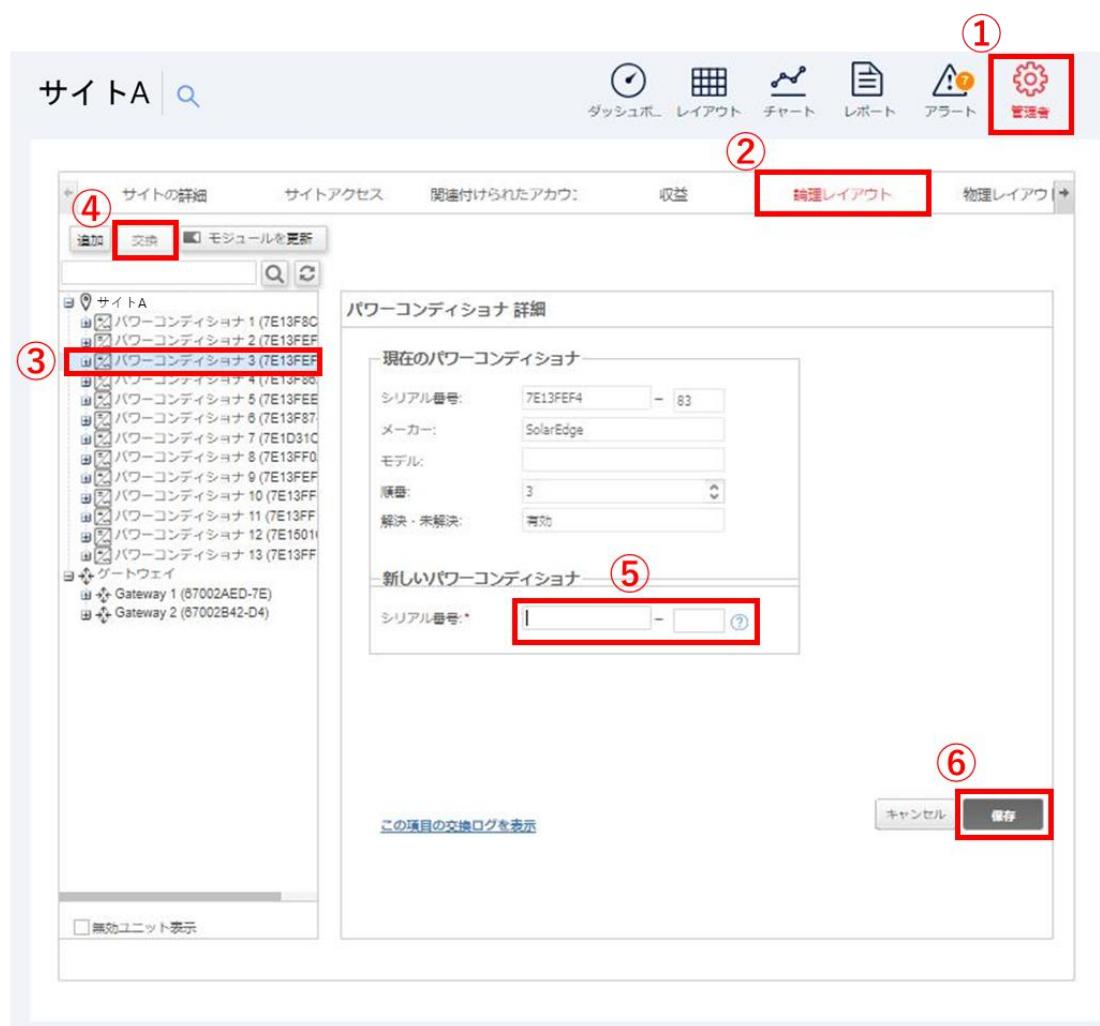
以下の手順でシリアル番号を置き換える

(※シリアル番号の置き換えをしませんとモニタリングにデータが反映されません。)

※モニタリングサイトにログインできない権限の方は、

ソーラーエッジサポートに交換前と交換後の PCS シリアル番号をご連絡ください。

- ① 「管理者」タブをクリック
- ② 「論理レイアウト」タブをクリック
- ③ 該当 PCS をクリック
- ④ 「交換」ボタンをクリック
- ⑤ 交換後 PCS のシリアル番号 8 桁 - 2 桁(例: 7E0B63FD-56)を半角入力
- ⑥ 「保存」ボタンをクリック



[目次へ](#)

20. 弊社サポートセンター（050-3198-9430）へお問い合わせし、下記情報を伝える

※下記情報は弊社にて不具合判定、及び事後の情報整合性確認のために必要な情報です。

下記情報が無ければ保証対象外、もしくは取り交わしさせて頂いております限定保証制度に関して
今後何らかのペナルティが加えられる可能性が有りますので、御注意ください。

・関連ケース番号：

・交換前の PCS シリアル番号 8 桁ー2 桁： 例) 7E0B63FD-56

・交換後の PCS シリアル番号 8 桁ー2 桁： 例) 7E0B6741-BB

・不具合内容：

[目次へ](#)